

全国異常気象概況

＜台風や大雨、風雪等による災害＞

平成22年

(2010年)

平成23年3月

気象庁

—— 目 次 ——

1	平成22年(2010年)の気象災害(台風や大雨、風雪等による災害).....	1
1-1	気象の特徴	1
1-2	主な気象災害.....	1
	資料1-1 平成22年(2010年)激甚災害指定状況一覧表.....	26
2	平成22年(2010年) 台風の概要	28
2-1	平成22年(2010年)に発生した台風.....	28
	資料2-1-1 台風発生数一覧表	29
	資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表.....	30
	資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表.....	31
	資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	32
	資料2-1-5 平成22年(2010年)に発生した台風の一覧表.....	33
2-2	平成22年(2010年)に日本に影響した主な台風	34
	資料2-2-1 平成22年(2010年)に日本に影響した台風の概要表....	36
	資料2-2-2 平成22年(2010年)に発生した台風の経路図.....	37
3	平成22年(2010年)の天気概況.....	40

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 22 年（2010 年）の気象災害（台風や大雨、風雪等による災害）

1-1 気象の特徴

○年平均気温は全国で高く、降水量は一部を除き多い

全国的に 5 月までは気温の変動が大きかったが、6 月以降は高温となることが多く、年平均気温は全国で高く、北日本から西日本ではかなり高くなった。また、年降水量は西日本日本海側を除き多かった。年間日照時間は、北日本と沖縄・奄美でかなり少なかった。

○春は気温の変動が大きい

春は、暖かい空気が流れ込み気温が平年を大幅に上回った時期と、寒気が南下し気温が平年を大幅に下回った時期があるなど、全国的に気温の変動が大きかった。

○夏の日本の平均気温は過去 113 年間で最も高い

夏は全国的に気温が高く、日本の夏の平均気温（長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化の影響の少ない 17 地点の気象台などのデータを平均）は、1898 年以降の 113 年間で第 1 位の高い記録となった。

○台風の発生数が最も少ない

発生数は 14 個（平年は 26.7 個）で、1998 年の 16 個を下回り 1951 年の統計開始以来の最少を記録した。接近数は 7 個と平年（10.8 個）、上陸数は 2 個（平年値 2.6 個）といずれも平年値を下回った。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成 22 年（2010 年）に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生日順に災害番号（括弧内番号）を付けて記述した。また、災害番号に続けて、災害期日：地域、（ ）内に災害の種類、< > 内に気圧配置などの気象状況を記した。災害の種類別（大雨、大雪、暴風、突風、高波など）の一覧表を表 1.1 に示す。

被害の具体的な数値は、総務省消防庁、国土交通省の資料および地方気象台等が国や都道府県の防災機関等から入手し気象庁観測部統計室が取りまとめた資料による。また、地方気象台等が行った竜巻の被害状況等調査報告等も参考にした。

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(4),(7),(8),(9),(11),(12),(13),(14),(15),(16),(18),(20)
大雪	(2),(4)
暴風	(1),(2),(4),(5),(12),(14),(16),(20)
突風(竜巻を含む)	(20)
高波	(5),(8),(14)
その他	(3),(6),(10),(17),(19)

(1) 平成 21 年 12 月 31 日～平成 22 年 1 月 2 日：西日本から北日本（暴風、高波）＜低気圧、冬型＞

低気圧が発達しながら北海道の西海上から網走沖へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、西日本から北日本の一部で暴風となり、また、北日本の日本海側で大しけとなったほか、宗谷地方では高潮が発生した。

この低気圧等の影響で、岐阜県、山梨県および福島県で山岳遭難により 5 名が死亡したほか、暴風・強風により、住家の一部損壊等や農業被害が発生した。また、宗谷地方では高潮により、港湾被害、上架施設や荷捌所等漁業施設の破損などの水産業被害があった。さらに、西日本から北日本の広い範囲で、交通障害、電力障害が発生した（被害の状況は気象庁調べによる）。

12 月 31 日

低気圧が発達しながら北海道の西海上から網走沖に進み、伴う前線が釧路沖から関東の東海上に伸びた。日本付近は冬型の気圧配置となった。四国および東日本の一部で最大風速が 20 メートルを超える暴風となったほか、北日本の日本海側の一部で大しけとなった。

[主な最大風速]

東京都神津島村神津島(コヅ ^{シマ})	西北西	23.0	メートル	[11:56]
鹿児島県西之表市種子島(タネ ^{シマ})	北西	21.2	メートル	[09:03]
高知県室戸市室戸岬(ムト ^{シキ})	西北西	21.1	メートル	[05:17]
愛媛県宇和島市宇和島(ウヅ ^{シマ})	西北西	20.4	メートル	[08:42]
愛知県常滑市セントレア(セント ^{レア})	西北西	20.1	メートル	[14:13]

1 月 1 日

千島近海で低気圧がさらに発達し、強い冬型の気圧配置が継続した。北海道、山形県および新潟県の一部で最大風速が 20 メートルを超える暴風となったほか、北陸地方から北日本の日本海側で大しけとなった。また、北海道のオホーツク沿岸では潮位偏差が 50 センチメートル以上となる高潮が発生した。

[主な最大風速]

山形県酒田市飛島(トビ ^{シマ})	西北西	24.7	メートル	[05:06]
北海道浦河郡浦河町浦河(ウカ ^リ)	西	24.3	メートル	[22:52]
新潟県佐渡市相川(アハ ^リ)	北西	22.6	メートル	[15:32]

1 月 2 日

北日本を中心に冬型の気圧配置が継続した。北海道の一部で最大風速が 20 メートルを超える暴風となったほか、北日本の日本海側の一部で大しけとなった。また、北海道のオホーツク沿岸では潮位偏差が 50 センチメートル以上となる高潮が発生した。

[主な最大風速]

北海道幌泉郡えりも町えりも岬(エリモ ^{シキ})	西	29.5		[00:10]
------------------------------------	---	------	--	---------

(2) 2 月 5 日～2 月 6 日：東日本から北日本（暴風、大雪、高波）＜冬型＞

日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、日本から北日本の一部で暴風となったほか、北陸地方の沿岸で大しけとなり、また、東日本から北日本の日本海側を中心に大雪となった。

大雪や暴風のため、新潟県では地吹雪により広域農道などで数十台の車が通行できなくなったほか、群馬県や石川県などで農業被害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

2 月 5 日

冬型の気圧配置となった。東京都の一部で最大風速が 20 メートルを超える暴風となった。また、東日本から北日本の一部で大雪となり、新潟では、2月の月最大積雪深で観測史上3位となる 81 センチとなった。

[主な最大風速]

東京都神津島村神津島(コヅシマ) 西北西 20.2 メートル [21:48]

2月6日

冬型の気圧配置が継続した。新潟県、東京都および北海道の一部で最大風速が 20 メートルを超える暴風となったほか、石川県および新潟県の沿岸で大しけとなった。また、東日本から北日本の一部で大雪となり、群馬県みなかみ町みなかみでは日降雪量が 71 センチとなった。

[主な最大風速]

新潟県佐渡市相川(アハカリ) 北西 23.4 メートル [07:31]

東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 西北西 22.7 メートル [09:19]

北海道奥尻郡奥尻町奥尻(オクリ) 北西 20.3 メートル [13:49]

(3) 2月25日：東京都（濃霧）＜高気圧＞

房総半島付近から東京湾にかけて、高さおよそ数百メートル以下のごく下層に周辺の海域から湿った空気が流れ込んでいたこと、高気圧に覆われて風が弱かったこと、地上付近で気温が下がったことなどから、午前中に関東南部で局地的に濃霧が発生した。

この濃霧による視程障害の影響で、東京国際空港では発着する航空機 115 便が欠航となった。(被害の状況は気象庁調べによる)

(4) 3月9日～10日：西日本から北日本（大雨、大雪、暴風）＜低気圧＞

低気圧が発達しながら九州の南海上から本州南岸を通って千島近海に進み、別の低気圧が日本海中部から千島近海に進んだ。このため西日本から北日本の一部で暴風となったほか、中国地方や東北地方の太平洋側の一部で大雪となった。

このため、西日本から東日本の広い範囲で農業被害、電力障害や交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

3月9日

九州の南海上の低気圧が前線を伴って東海道沖へ進んだ。近畿地方の一部や東日本の一部では大雨となったほか、中国地方の一部では大雪となった。

[主な日降水量]

三重県尾鷲市尾鷲(オウレ) 160.0 ミリ 東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 107.0 ミリ

和歌山県新宮市新宮(シンガリ) 100.5 ミリ

3月10日

東海道沖の低気圧が北海道へ進み、別の低気圧が日本海中部から東北地方へ進み、日本付近は冬型となった。西日本および北日本の一部で最大風速が 20 メートルを超える暴風となったほか、東北地方の一部では大雪となり、青森県八戸市八戸（ハチノヘ）では日降雪量が年間の観測史上1位となる 61 センチメートルとなった。

[主な最大風速]

北海道幌泉郡えりも町えりも岬(エリモサキ) 北北東 27.1 メートル [18:19]

高知県室戸市室戸岬(ムトシマ)	西	23.3	メートル	[16:02]
鹿児島県西之表市種子島(タカシマ)	北西	23.2	メートル	[10:45]
愛媛県宇和島市宇和島(ウヅイマ)	西北西	21.0	メートル	[08:19]
宮城県牡鹿郡女川町江ノ島(エノシマ)	北北東	20.3	メートル	[11:42]

(5) 3月20日～21日：西日本から北日本（暴風、高波）＜低気圧＞

低気圧が発達しながら黄海から日本海中部を通過して網走沖に進み、伴う前線が西日本から東日本を通過した。このため、西日本から北日本の一部で暴風となったほか、西日本から北日本の日本海側を中心に大しけとなった。

暴風や高波の影響で、20日には、静岡県で野焼き中の事故による死者3名、福岡県では強風によって倒れた支柱の下敷きとなって死者1名、21日には、高知県で船舶の転覆による死者1名が発生した。また、西日本から北日本の広い範囲で農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

3月20日

黄海の低気圧が日本海中部へ進み、伴う前線が西日本と北日本を通過した。このため、高知県、和歌山県、静岡県の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な最大風速]

和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	南南東	25.9	メートル	[21:25]
高知県室戸市室戸岬(ムトシマ)	南西	24.8	メートル	[23:19]
静岡県熱海市網代(アジノ)	西南西	20.1	メートル	[20:12]

3月21日

日本海中部の低気圧が発達しながらサハリンの東海上へ進み、伴う前線が本州を通過した。西日本から北日本にかけての一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な最大風速]

高知県室戸市室戸岬(ムトシマ)	西	27.3	メートル	[02:37]
東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリソウ)	南南西	26.7	メートル	[05:00]
北海道旭川市旭川(アサヒカ)	西南西	24.6	メートル	[13:42]
和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	南南東	24.6	メートル	[01:11]
千葉県千葉市中央区千葉(チバ)	南南西	24.4	メートル	[04:59]
山形県酒田市飛島(トビシマ)	西南西	24.3	メートル	[06:33]
東京都三宅村三宅坪田(ミヤケホダ)	南南西	24.1	メートル	[08:09]
青森県八戸市八戸(ハチノ)	西南西	23.2	メートル	[10:34]
北海道釧路市釧路(クシロ)	西	23.0	メートル	[15:16]
宮城県名取市名取(ナトリ)	西	22.4	メートル	[10:12]
新潟県佐渡市両津(リョウツ)	西	20.9	メートル	[00:38]
島根県隠岐郡隠岐の島町西郷岬(サイゴウシマ)	西南西	20.1	メートル	[04:02]

(6) 3月下旬：西日本から東日本（低温、降霜）＜寒気移流＞

3月下旬としては強い寒気が流れ込んだ影響で全国的に顕著な低温となり、和歌山県や静岡県などで降雪や降霜があった。

降霜や降雪の影響で、静岡県では茶、和歌山県では梅などの農作物に被害が発生し、静岡県の被害額は約 44 億円、和歌山県の被害額は約 20 億円となり、全国での被害見込額は 88 億円に上った。この被害額は、降霜による被害としては平成 10 年以降では最も多い額となった（被害の状況は農林水産省調べ（平成 22 年 8 月 31 日現在））。

(7) 4 月 27 日～29 日：西日本から北日本（大雨）＜低気圧＞

低気圧が日本付近を通過したため、西日本から北日本の広い範囲で大雨となったほか、四国地方と東北南部の一部で暴風となった。

大雨のため、徳島県や神奈川県を中心に住家の浸水が約 500 棟に上ったほか、西日本から北日本の広い範囲で、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

4 月 27 日

東シナ海の低気圧が近畿へ進んだ。西日本の一部と東日本の一部では日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

徳島県海部郡美波町日和佐(ヒワサ)	231.5 ミリ	高知県高岡郡四万十町窪川(クボカワ)	198.0 ミリ
三重県尾鷲市尾鷲(オウノ)	154.0 ミリ	鹿児島県肝属郡肝付町内之浦(ウチノウラ)	122.5 ミリ
神奈川県足柄下郡箱根町箱根(ハコネ)	116.5 ミリ	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	110.0 ミリ
和歌山県東牟婁郡串本町潮岬(シホシサキ)	107.0 ミリ		

4 月 28 日

低気圧が関東の東海上へ進んだ。また、華北の低気圧が前線を伴って朝鮮半島へ進んだ。東日本の一部と北日本の一部では日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	253.5 ミリ	茨城県北茨城市北茨城(キタイハラキ)	179.0 ミリ
福島県いわき市小名浜(オナハマ)	178.5 ミリ	神奈川県藤沢市辻堂(ツジトウ)	139.5 ミリ
岩手県釜石市釜石(カマイシ)	128.5 ミリ	宮城県石巻市雄勝(オウツ)	118.5 ミリ
北海道白老郡白老町森野(モリノ)	115.0 ミリ		

4 月 29 日

朝鮮半島の低気圧が北海道の西海上へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。北海道の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

北海道白老郡白老町森野(モリノ)	186.5 ミリ	北海道千歳市支笏湖畔(シツコハン)	116.0 ミリ
------------------	----------	-------------------	----------

(8) 5 月 22 日～24 日：全国（大雨、高波）＜低気圧＞

低気圧が東シナ海から三陸沖に進み、この低気圧からのびる前線が西日本から北日本を通過した。このため、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。また、西日本の太平洋側の一部では大しけとなった。

大雨と高波により、船舶事故で宮崎県と島根県であわせて 5 名の死者が発生したほか住家の浸水が約 80 棟となった。また、西日本から北日本の広い範囲で、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

5 月 22 日

華中の低気圧が黄海へ進み、伴う前線が九州南部を通過した。大分県の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

大分県佐伯市蒲江(カマ) 119.5 ミリ

5月23日

黄海の低気圧が朝鮮半島へ進み、華南から西日本にかけてのびた前線上の対馬海峡に別の低気圧が発生した。鹿児島県では所により日降水量が 300 ミリを超えたほか西日本の一部と東日本の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾山(シビサ)	364.5 ミリ	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	296.5 ミリ
熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ)	281.5 ミリ	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハ)	268.5 ミリ
長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	266.5 ミリ	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	265.0 ミリ
徳島県海部郡海陽町海陽(カイヨウ)	221.0 ミリ	愛媛県西予市宇和(ウワ)	193.5 ミリ
三重県津市笠取山(カサトリヤマ)	175.0 ミリ	和歌山県新宮市新宮(シンクラ)	159.5 ミリ
福岡県田川郡添田町英彦山(ヒコヤ)	157.5 ミリ	山口県岩国市広瀬(ヒロセ)	150.0 ミリ
京都府長岡京市長岡京(ナガオカキョウ)	148.5 ミリ	広島県廿日市市廿日市津田(ハツカイツタ)	137.0 ミリ
佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	136.5 ミリ	兵庫県神崎郡福崎町福崎(フサキ)	125.5 ミリ
静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	121.5 ミリ	岡山県井原市佐屋(サヤ)	121.0 ミリ
島根県隠岐郡海士町海士(アマ)	120.5 ミリ	長野県松本市奈川(ナガリ)	110.0 ミリ
奈良県宇陀郡曽爾村曾爾(ソニ)	107.5 ミリ		

5月24日

朝鮮半島の低気圧が東シナ海から西日本にかけてのびる前線と一体となって日本海西部へ進み、前線が沖縄・奄美から東日本にかけて通過した。このため、西日本から東北地方にかけての一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

長野県木曾郡王滝村御嶽山(オウタケサン)	229.5 ミリ	高知県安芸郡馬路村魚梁瀬(ササ)	174.0 ミリ
宮城県石巻市雄勝(オウツ)	166.5 ミリ	岐阜県大野郡白川村御母衣(ミボロ)	139.5 ミリ
福島県いわき市小名浜(オナハマ)	131.0 ミリ	岩手県釜石市釜石(カマシ)	120.5 ミリ
徳島県三好市京上(キョウジョウ)	120.0 ミリ	兵庫県神崎郡福崎町福崎(フサキ)	117.0 ミリ
茨城県北茨城市北茨城(キタイハラキ)	110.0 ミリ	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	106.5 ミリ
新潟県佐渡市弾崎(ハジキザキ)	104.0 ミリ		

(9) 6月11日～7月19日：全国(大雨) <梅雨前線>

6月11日から7月19日にかけて日本付近に停滞した梅雨前線の影響により、各地で大雨となった。

この大雨により、全国で死者 16 名、行方不明者 5 名となったほか、住家の浸水が約 7,500 棟に上り、また、約 600 件の土砂災害が発生した。また、全国で農業被害、交通障害、電力障害が発生した。(被害は、総務省消防庁調べ(平成 22 年 9 月 9 日現在)、国土交通省調べ(平成 22 年 7 月 28 日現在)などによる)

6月11日から6月23日まで

11日から16日にかけて梅雨前線が九州の南海上から関東の東海上に停滞し、梅雨前線上の九州の西海

上の低気圧が関東の東海上へ進んだ。このため、11日19時45分までの1時間に沖縄県島尻郡座間味村慶良間(ケマ)で86.0ミリの猛烈な雨が降り、九州地方でところにより日降水量が200ミリを超えたほか、沖縄地方、四国地方および関東甲信地方の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

17日から23日にかけて、梅雨前線が九州地方から本州南岸に停滞した。このため、九州地方や近畿地方でところにより日降水量が200ミリを超えたほか、九州北部、四国地方、東海地方および関東甲信地方の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月11日

沖縄県島尻郡座間味村慶良間(ケマ) 186.0ミリ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村渡嘉敷(トカシ)182.0ミリ

6月12日

鹿児島県熊毛郡屋久島町尾之間(オアイダ) 204.5ミリ 鹿児島県熊毛郡屋久島町屋久島(ヤクシマ)118.0ミリ

6月13日

宮崎県児湯郡都農町都農(ツ) 170.0ミリ 高知県土佐清水市三崎(ミサキ) 117.5ミリ

6月14日

東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 109.5ミリ 沖縄県宮古島市城辺(カスクベ) 93.0ミリ

6月15日

鹿児島県肝属郡南大隅町佐多(サタ) 105.5ミリ 宮崎県串間市串間(クシマ) 103.5ミリ

6月16日

鹿児島県奄美市名瀬(ナセ) 103.5ミリ 愛知県北設楽郡豊根村茶臼山(チャウヤマ)83.0ミリ

6月17日

鹿児島県熊毛郡屋久島町屋久島(ヤクシマ) 158.5ミリ 鹿児島県熊毛郡南種子町上中(カミナカ)123.5ミリ

6月18日

宮崎県えびの市えびの(エビノ) 277.0ミリ 鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ) 222.5ミリ

和歌山県東牟婁郡古座川町西川(ニシカ) 202.5ミリ 静岡県周智郡森町三倉(ミクラ) 199.0ミリ

高知県安芸郡馬路村魚梁瀬(イサセ) 173.5ミリ 神奈川県足柄下郡箱根町箱根(ハコネ) 128.5ミリ

熊本県球磨郡湯前町湯前横谷(ユノエヨコタニ) 126.0ミリ 奈良県吉野郡十津川村玉置山(タマキヤマ)123.0ミリ

愛知県新城市新城(シンシロ) 118.0ミリ 三重県熊野市熊野新鹿(クノアタシカ) 115.5ミリ

6月19日

鹿児島県肝属郡南大隅町佐多(サタ) 220.0ミリ 静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 106.5ミリ

6月20日

鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ) 279.0ミリ 宮崎県えびの市えびの(エビノ) 250.0ミリ

熊本県球磨郡湯前町湯前横谷(ユノエヨコタニ) 140.0ミリ 岐阜県加茂郡白川町黒川(クロカ) 120.0ミリ

6月21日

鹿児島県肝属郡南大隅町佐多(サタ) 113.0ミリ 鹿児島県西之表市種子島(タネシマ) 107.0ミリ

6月22日

鹿児島県曾於市大隅(オオスミ) 192.0ミリ 宮崎県日南市深瀬(フカセ) 170.5ミリ

奈良県吉野郡十津川村風屋(カゼヤ) 101.0ミリ

6月23日

静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 108.0ミリ 岐阜県郡上市八幡(ハチマン) 103.0ミリ

6月24日から7月1日まで

24日から29日にかけて梅雨前線が次第に北上し、対馬海峡から山陰沖に停滞した。このため、四国地

方でところにより日降水量が 400 ミリを、また、九州地方および東海地方ではところにより日降水量が 200 ミリを超えたほか、中国地方、近畿地方、北陸地方および関東甲信地方の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

6 月 30 日から 7 月 1 日にかけて梅雨前線が対馬海峡から九州の南海上へ南下した。このため、九州地方でところにより日降水量が 200 ミリを超えたほか、沖縄地方および関東甲信地方の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6 月 24 日

北海道士別市朝日(アサヒ) 88.0 ミリ 東京都八丈町八重見ヶ原(ヤヱミガハラ) 45.0 ミリ

6 月 25 日

宮崎県日南市深瀬(フカセ) 207.0 ミリ 鹿児島県肝属郡肝付町内之浦(ウチノウラ) 205.0 ミリ

高知県土佐清水市清水(シミズ) 138.5 ミリ 大分県佐伯市佐伯(サイイ) 124.0 ミリ

6 月 26 日

高知県香美市繁藤(シゲトウ) 421.0 ミリ 徳島県三好市京上(キョウジヨウ) 259.5 ミリ

岐阜県本巣市樽見(ヅミ) 214.0 ミリ 兵庫県朝来市生野(イクノ) 162.0 ミリ

広島県庄原市庄原(ショウハラ) 134.5 ミリ 宮崎県えびの市加久藤(カクフウ) 132.5 ミリ

福岡県久留米市久留米(クルメ) 129.0 ミリ 岡山県真庭市久世(クセ) 120.0 ミリ

熊本県球磨郡湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ) 117.5 ミリ

長崎県壱岐市石田(イシダ) 105.0 ミリ 佐賀県鳥栖市鳥栖(トス) 104.5 ミリ

愛媛県西予市宇和(ウラ) 103.0 ミリ 山口県美祢市秋吉台(アキヨシダイ) 102.5 ミリ

香川県小豆郡小豆島町内海(ウチノミ) 100.5 ミリ

6 月 27 日

山口県山口市篠生(シノブ) 201.5 ミリ 長崎県壱岐市石田(イシダ) 145.0 ミリ

新潟県村上市高根(タカネ) 129.5 ミリ 島根県鹿足郡津和野町津和野(ツナノ) 115.5 ミリ

岐阜県加茂郡八百津町伽藍(ガラン) 102.5 ミリ

6 月 28 日

長崎県対馬市厳原(イツハラ) 146.5 ミリ 佐賀県唐津市唐津(カラツ) 91.0 ミリ

6 月 29 日

熊本県天草市本渡(ホント) 190.5 ミリ 埼玉県飯能市飯能(ハノノ) 148.0 ミリ

長崎県五島市福江(フクエ) 141.5 ミリ 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡(クラカ) 129.0 ミリ

鹿児島県鹿屋市輝北(キホク) 109.5 ミリ

6 月 30 日

鹿児島県鹿屋郡十島村中之島(カノシマ) 232.5 ミリ 熊本県球磨郡球磨村一勝地(イツショウチ) 113.5 ミリ

茨城県北茨城市花園(ハナヅリ) 105.5 ミリ 長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ) 100.0 ミリ

7 月 1 日

沖縄県名護市名護(ナゴ) 148.0 ミリ

鹿児島県鹿屋郡十島村中之島(カノシマ) 136.0 ミリ

7 月 2 日から 7 月 9 日まで

2 日から 5 日にかけて梅雨前線が対馬海峡から次第に南下して九州の南海上から関東の東海上に停滞し、梅雨前線上の黄海の低気圧が北海道の東海上へ進んだ。このため、2 日には 22 時 57 分までの 1 時間に鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)で 85.5 ミリ、3 日には 2 時 21 分までの 1 時間に宮崎県えびの市えびの

(エビノ)で110.0ミリ、9時14分までの1時間に鹿児島県熊毛郡南種子町上中(カミナカ)で115.0ミリの猛烈な雨が降り、九州地方でところにより日降水量が300ミリを超えたほか、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方および関東甲信地方の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

6日から9日にかけて梅雨前線が九州の南海上から三陸沖に停滞し、梅雨前線上の四国沖の低気圧が関東甲信地方に進んだ。このため、7日には島根県鹿足郡吉賀町吉賀(ヨシカ)で16時54分までの1時間に83.5ミリの猛烈な雨が降り、九州地方、中国地方、近畿地方、北陸地方および関東甲信地方の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月2日

鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ) 128.0ミリ 岐阜県加茂郡白川町黒川(クワカ) 68.5ミリ

7月3日

宮崎県えびの市えびの(エビノ) 392.0ミリ 鹿児島県熊毛郡南種子町上中(カミナカ)307.5ミリ

和歌山県田辺市栗栖川(クリカガリ) 163.0ミリ 福井県大野市大野(オホノ) 129.5ミリ

岐阜県郡上市長滝(ナガタキ) 117.0ミリ 東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 114.0ミリ

滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ) 110.0ミリ 島根県隠岐郡海士町海士(アマ) 108.0ミリ

7月4日

鹿児島県肝属郡南大隅町佐多(サタ) 80.5ミリ 熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ) 67.5ミリ

7月5日

埼玉県所沢市所沢(トコザリ) 104.5ミリ 鹿児島県鹿児島郡十島村中之島(カノシマ)104.0ミリ

7月6日

福島県郡山市郡山(コリヤマ) 73.0ミリ 鹿児島県鹿児島郡十島村中之島(カノシマ) 72.0ミリ

7月7日

島根県鹿足郡吉賀町吉賀(ヨシカ) 137.5ミリ 鹿児島県熊毛郡屋久島町尾之間(オノイダ) 104.0ミリ

7月8日

東京都神津島村神津島(コヅジマ) 125.0ミリ 鹿児島県大島郡喜界町喜界島(キカイジマ) 46.0ミリ

7月9日

鹿児島県熊毛郡屋久島町屋久島(ヤクシマ) 163.0ミリ 宮崎県小林市野尻(ノジリ) 120.5ミリ

石川県七尾市七尾(ナナオ) 118.0ミリ 和歌山県田辺市龍神(リュウジン) 117.0ミリ

東京都神津島村神津島(コヅジマ) 112.5ミリ 奈良県吉野郡十津川村風屋(カゼヤ) 100.0ミリ

7月10日から19日まで

10日から12日にかけて九州の南海上の梅雨前線が次第に北上して九州地方から東北地方に停滞し、梅雨前線上の華中の低気圧が東北地方へ進んだ。このため、中国地方でところにより日降水量が200ミリを超えたほか、九州地方、四国地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方および北海道の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

13日から15日にかけて梅雨前線は九州北部から東北地方に停滞し、梅雨前線上の黄海の低気圧が三陸沖へと進んだ。このため、13日には徳島県海部郡美波町日和佐(ヒワサ)で19時23分までの1時間に108.0ミリ、14日には佐賀県佐賀市北山(ホクサン)で6時59分までの1時間に80.0ミリ、15日には岐阜県多治見市多治見(タジミ)で19時12分までの1時間に83.5ミリの猛烈な雨が降り、九州地方、四国地方、東海地方および関東甲信地方でところにより日降水量が200ミリを超えたほか、中国地方、近畿地方、北陸地方で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

16日から19日にかけて梅雨前線は次第に北上した。このため、中国地方、北陸地方、東北地方、北海道の一部で大雨となった。

[主な日降水量]

7月10日

北海道広尾郡広尾町広尾(ヒロ) 104.5 ミリ 長崎県対馬市厳原(イツハラ) 96.5 ミリ

7月11日

島根県隠岐郡海士町海士(アマ) 236.5 ミリ 長崎県対馬市鱒浦(ウニウラ) 166.5 ミリ
 長野県木曾郡王滝村御嶽山(オウタケサン) 126.0 ミリ 徳島県那賀郡那賀町木頭(キトウ) 125.0 ミリ
 岐阜県下呂市萩原(ハギワラ) 120.5 ミリ 静岡県静岡市葵区井川(イカリ) 109.5 ミリ

7月12日

岐阜県下呂市宮地(ミヤジ) 161.0 ミリ 愛媛県松山市松山(マツヤマ) 158.5 ミリ
 長野県木曾郡王滝村御嶽山(オウタケサン) 146.0 ミリ 熊本県球磨郡五木村五木(イツキ) 140.0 ミリ
 大分県国東市国見(クニミ) 139.0 ミリ 北海道幌泉郡えりも町目黒(メグロ) 124.0 ミリ
 静岡県御殿場市御殿場(ゴテンバ) 124.0 ミリ 宮崎県えびの市加久藤(カクフ) 122.5 ミリ
 山口県大島郡周防大島町安下庄(アゲノショウ) 117.0 ミリ
 広島県山県郡安芸太田町内黒山(ウチクノヤマ) 113.0 ミリ
 島根県益田市匹見(ヒキミ) 110.0 ミリ 福井県越前市武生(タケ) 108.5 ミリ

7月13日

長崎県対馬市厳原(イツハラ) 236.5 ミリ 山口県美祢市秋吉台(アキヨシダイ) 234.0 ミリ
 福岡県行橋市行橋(ユクハシ) 208.5 ミリ 徳島県海部郡美波町日和佐(ヒロサ) 175.0 ミリ
 広島県山県郡安芸太田町内黒山(ウチクノヤマ) 171.5 ミリ
 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬(イサセ) 159.5 ミリ 島根県鹿足郡津和野町津和野(ツワノ) 157.0 ミリ
 佐賀県佐賀市北山(ホクサン) 141.0 ミリ 岐阜県郡上市八幡(ハチマン) 133.0 ミリ
 石川県加賀市栢野(カヤノ) 103.5 ミリ 滋賀県彦根市彦根(ヒコネ) 101.0 ミリ

7月14日

福岡県北九州市小倉南区頂吉(カガメヨシ) 232.5 ミリ 長野県飯田市南信濃(ミナシナノ) 223.0 ミリ
 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬(イサセ) 222.5 ミリ 佐賀県佐賀市北山(ホクサン) 211.5 ミリ
 愛知県北設楽郡豊根村茶臼山(チャウスヤマ) 195.5 ミリ 和歌山県有田郡有田川町清水(シミズ) 192.5 ミリ
 広島県山県郡北広島町都志見(ツシミ) 184.5 ミリ 徳島県那賀郡那賀町木頭(キトウ) 168.5 ミリ
 京都府京都市右京区京北(ケイホク) 161.0 ミリ 鹿児島県霧島市牧之原(マキノハラ) 158.0 ミリ
 長崎県松浦市松浦(マツウラ) 151.5 ミリ 静岡県浜松市天竜区熊(クマ) 147.5 ミリ
 大阪府豊能郡能勢町能勢(ノセ) 140.5 ミリ 滋賀県大津市南小松(ミナミコマツ) 135.5 ミリ
 山口県岩国市広瀬(ヒロセ) 133.0 ミリ 岐阜県本巣市樽見(タルミ) 115.5 ミリ
 島根県浜田市浜田(ハマダ) 114.0 ミリ 岡山県高梁市陣山(ジンヤマ) 109.0 ミリ

7月15日

岐阜県加茂郡八百津町伽藍(ガラン) 238.5 ミリ 山口県美祢市東厚保(ヒガシアツ) 185.5 ミリ

7月16日

栃木県塩谷郡塩谷町塩谷(シヤ) 98.0 ミリ 広島県庄原市庄原(ショウハラ) 65.5 ミリ

7月17日

福島県耶麻郡北塩原村桧原(ヒハラ) 61.0 ミリ 新潟県中魚沼郡津南町津南(ツナン) 54.5 ミリ

7月18日

北海道留萌郡小平町達布(タッブ) 75.5 ミリ 北海道苫前郡苫前町古丹別(コタンベツ)63.5 ミリ
7月19日
北海道中川郡美深町小車(オクルマ) 94.0 ミリ 北海道苫前郡初山別村初山別(ショサンベツ)90.5 ミリ

(10) 6月～9月：全国（高温）＜高気圧＞

6月から9月にかけて、太平洋高気圧の勢力が強く、全国的に記録的な高温となった。日本の夏の平均気温（長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響の少ない17地点の気象台などのデータを平均）は、1898年以降の113年間で第1位の高い記録となった。特に、強い太平洋高気圧に覆われることが多かった8月の気温が高く、全国154地点のうち77地点で月平均気温の高い記録を更新した。

高温による熱中症等により、全国で271名の死者が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(11) 7月29日～30日：北日本（大雨）＜低気圧＞

低気圧が日本海中部から北海道に進んだ。このため、東北北部と北海道で大雨となった。この大雨により、住家の浸水が約400棟となったほか、林業被害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

7月29日

高気圧の西の縁を南から流入する湿った空気と北海道付近を通過した低気圧の影響で、北海道の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

北海道古宇郡神恵内村神恵内(カモエナイ) 171.0 ミリ 北海道奥尻郡奥尻町奥尻(オクリ) 130.5 ミリ

7月30日

湿った空気の流入や低気圧から延びる前線の影響で、秋田県の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

秋田県仙北市角館(カクダテ) 138.0 ミリ

(12) 8月9日～14日：全国（大雨、暴風）＜前線、台風第4号＞

9日から14日にかけて、北日本から東日本に前線が停滞した。また、8月8日21時に先島諸島付近で発生した台風第4号は、発達しながら北に進み、10日には朝鮮半島の南海上で進路を北東に変え、11日から12日にかけて日本海を北東に進み、12日17時頃に秋田市付近に上陸した後三陸沖に進み、13日12時に温帯低気圧に変わった。前線および台風第4号の影響により、北日本から西日本の広い範囲で大雨となったほか、南西諸島で暴風となった。

この大雨と暴風により、全国で住家の浸水が約400棟となったほか、農業被害、交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

8月9日

先島諸島付近の台風第4号が東シナ海へ進んだ。また、南から湿った空気が流入した。このため、愛知県田原市田原(カウ)では0時24分までの1時間に70.0ミリの非常に激しい雨が降ったほか、九州南部の一部と東日本の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、台風第4号の影響で沖縄県の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な日降水量]

三重県いなべ市北勢(ホケイ) 162.5 ミリ 東京都三宅村三宅坪田(ミヤツボタ) 143.0 ミリ
宮崎県宮崎市青島(アホマ) 137.5 ミリ

[主な最大風速]

沖縄県島尻郡久米島町北原(キタハラ) 南 25.1 メートル [13:07]

8月10日

東シナ海の台風第4号が九州の西海上へ進んだ。また、華北からオホーツク海にかけて前線が停滞した。沖縄県八重山郡竹富町大原(オホハラ)で10時9分までの1時間に85.5ミリの猛烈な雨が降ったほか、沖縄県の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、長崎県の一部では最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な日降水量]

沖縄県八重山郡竹富町大原(オホハラ) 111.5 ミリ

[主な最大風速]

長崎県南松浦郡新上五島町頭ヶ島(カシガシマ) 南南東 20.7 メートル [16:31]

8月11日

九州の西海上の台風第4号が日本海西部へ進み、黄海からオホーツク海にかけて停滞した前線上の宗谷海峡に低気圧が発生して東へ進んだ。西日本の一部と北海道の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、長崎県の一部では最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な日降水量]

長崎県平戸市平戸(ヒラト) 181.5 ミリ 北海道二世郡八雲町熊石(クマシ) 166.0 ミリ
高知県安芸郡馬路村魚梁瀬(イサヒ) 107.0 ミリ

[主な最大風速]

長崎県対馬市美津島(ミツシマ) 南 20.4 メートル [09:33]

8月12日

日本海西部の台風第4号が秋田市付近に上陸した後三陸沖へ進み、北海道に前線が停滞した。京都府京都市中京区京都(キョウト)では5時23分までの1時間に76.5ミリの非常に激しい雨が降ったほか、近畿や東海地方と北海道の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、島根県および高知県の一部では最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な日降水量]

岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ) 151.5 ミリ 京都府京都市中京区京都(キョウト) 141.0 ミリ
愛知県北設楽郡豊根村茶臼山(チャウスヤマ) 121.0 ミリ 北海道沙流郡平取町旭(アサヒ) 117.5 ミリ

[主な最大風速]

島根県隠岐郡隠岐の島町西郷岬(サイゴウミサキ) 南南西 20.3 メートル [00:23]
高知県室戸市室戸岬(ムトミサキ) 西南西 20.0 メートル [08:00]

8月13日

三陸沖の台風第4号が温帯低気圧に変わって東へ離れた。華北から日本海にかけて停滞した前線が日本の東海上までのび、前線上の日本海中部に低気圧が発生して東へ進んだ。

[主な日降水量]

北海道中川郡音威子府村音威子府(オトイネツ) 81.0 ミリ

8月14日

東北地方に前線が停滞し、前線上の日本海中部の低気圧が秋田沖へ進んだ。東北地方と北海道の一部で

日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

秋田県仙北市角館(カクダゲ)	167.5 ミリ	岩手県和賀郡西和賀町沢内(サワチ)	144.5 ミリ
北海道天塩郡遠別町遠別(エンベツ)	136.5 ミリ	山形県最上郡最上町瀬見(セミ)	113.5 ミリ

(13) 8月31日～9月1日：北日本（大雨）＜前線、低気圧＞

低気圧が沿海州からサハリンの東海上に進み、この低気圧からのびる前線が北日本から西日本を通過した。前線の影響で東北地方を中心に大雨となった。

この大雨により、秋田県と青森県を中心に住家の浸水が約 100 棟に上ったほか、道路損壊などで集落が孤立するなどの被害が発生した。また、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

8月31日

サハリンの低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北海道から日本海を通過して黄海までのびた。青森県南津軽郡大鰐町大鰐(オウニ)では 11 時 20 分までの 1 時間に 70.5 ミリの非常に激しい雨が降ったほか、東北北部の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

青森県南津軽郡大鰐町大鰐(オウニ)	217.0 ミリ	秋田県大館市陣場(ジンバ)	115.0 ミリ
-------------------	----------	---------------	----------

9月1日

南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。青森県五所川原市市浦(シウラ)では 6 時 6 分までの 1 時間に 72.5 ミリの非常に激しい雨が降ったほか、青森県の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

青森県五所川原市市浦(シウラ)	116.5 ミリ
-----------------	----------

(14) 8月30日～8月31日：沖縄県（暴風、大雨、高波）＜台風第7号＞

8月30日3時に日本の南海上で発生した台風第7号は発達しながら北西へ進み、31日には沖縄本島を通過して、9月1日から2日にかけて東シナ海を北上し、2日には進路を北東に変え、3日3時に日本海中部で熱帯低気圧に変わった。このため、沖縄県の一部で大雨となり、沖縄・奄美の一部で暴風となったほか、沖縄本島付近で大しけとなった。

この台風による暴風等の影響で、沖縄県で住家の半壊1棟、一部損壊27棟の被害が発生したほか、交通障害や電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

8月30日

日本の南海上で台風第7号が発生して北西へ進んだ。沖縄県の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県石垣市石垣島(イカギジマ)	146.5 ミリ
------------------	----------

8月31日

沖縄の南海上の台風第7号は北西へ進み、沖縄本島付近を通過した。沖縄県の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。また、沖縄県島尻郡伊是名村伊是名(イヱナ) では 18 時 22 分に最大瞬間風速

56.4]メートルを観測したほか、沖縄県の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。また、沖縄本島付近では有義波高が8メートルを超える大しけとなった。

[主な日降水量]

沖縄県国頭郡本部町本部(モトブ) 124.0 ミリ

[主な最大風速]

沖縄県島尻郡伊是名村伊是名(イナガ) 東 39.7]メートル [18:28]

沖縄県名護市名護(ナゴ) 西北西 33.5 メートル [17:26]

(15) 9月4日～9日：沖縄・奄美から北日本（大雨）＜台風第9号、熱帯低気圧、前線＞

9月4日9時に南大東島の南で発生した台風第9号は、発達しながら西に進み、4日には沖縄本島の南西海上で進路を北寄りに変え、5日は東シナ海を北上した。6日には九州の西海上で進路を北東に変え、7日には対馬海峡を通過して山陰沖を東北東に進んだ。8日には福井県敦賀市付近に上陸して東に進み、8日12時頃、岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった。台風第9号から変わった熱帯低気圧はその後、関東南部を東に進んで、9日には関東の東海上へ達した。台風第9号および熱帯低気圧の影響により、9月4日から9日にかけて南西諸島から北日本の広い範囲で大雨となった。

この台風の影響により、静岡県、神奈川県、千葉県を中心に住家の浸水が約900棟、土砂災害が約130箇所を上り、また、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

9月4日

台風第9号は沖縄本島の南の海上を北西に進んで東シナ海に達した。このため、日降水量が南西諸島の一部で100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県宮古島市下地(シモジ) 127.5 ミリ 沖縄県宮古島市鏡原(カガシハラ) 99.0 ミリ

9月5日

台風第9号は東シナ海を北に進んだ。このため、日降水量が南西諸島の一部で100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県島尻郡座間味村慶良間(ケラマ) 125.5 ミリ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ) 93.0 ミリ

9月6日

台風第9号は九州の西海上を北東に進んで、対馬海峡に達した。また、台風の影響で、湿った空気が流れ込み、北日本にかかる前線の活動が活発となった。このため、日降水量が九州北部地方と東北地方の一部で100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

長崎県五島市上大津(カシヅ) 161.5 ミリ 宮城県伊具郡丸森町筆甫(ヒツポ) 130.0 ミリ

9月7日

台風第9号は対馬海峡を通過して、山陰沖を東北東に進んだ。また、台風の影響で、湿った空気が流れ込み、日本海西部から北海道の東海上にのびる前線の活動が活発となった。このため、日降水量が中国地方の一部で200ミリを超えたほか、四国地方、北陸地方の一部で100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

島根県隠岐郡隠岐の島町西郷(サゴウ) 200.5 ミリ 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬(ササ) 137.5 ミリ

石川県輪島市輪島(ワジマ) 114.5 ミリ

9月8日

台風第9号は、福井県敦賀市付近に上陸し、北陸地方、東海地方を通過して、12時頃岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった。その後、熱帯低気圧は関東南部を通過して関東の東海上に達した。このため、神奈川県足柄上郡山北町丹沢湖(ツヅガワ)では16時7分までの1時間に77.5ミリの非常に激しい雨が降ったほか、日降水量が関東甲信地方でところにより400ミリを超え、また、東海地方ではところにより200ミリを超えたほか、近畿地方の一部で100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

神奈川県足柄上郡山北町丹沢湖(ツヅガワ)	495.5ミリ	静岡県静岡市葵区井川(イワ)	224.5ミリ
岐阜県本巣市樽見(ヅルミ)	214.5ミリ	千葉県香取郡東庄町東庄(トウショウ)	167.5ミリ
茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	155.5ミリ	山梨県南巨摩郡南部町南部(ナンブ)	134.5ミリ
滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤカセ)	117.5ミリ	長野県木曾郡王滝村御嶽山(オウタケサン)	104.5ミリ
愛知県北設楽郡豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	100.5ミリ		

9月9日

台風第9号から変わった熱帯低気圧は関東の東海上を南東に進んだ。熱帯低気圧の影響で関東南部から東海地方では雨となった。

[主な日降水量]

静岡県静岡市葵区井川(イワ)	40.5ミリ	静岡県静岡市駿河区静岡(シズカ)	32.5ミリ
----------------	--------	------------------	--------

(16) 9月18日～19日：沖縄県(暴風、大雨)＜台風第11号＞

9月15日21時に沖縄の南で発生した台風第11号は発達しながら北東に進み、24時間後の9月16日21時には強い勢力で宮古島の南東に達した。台風は、その後も発達しながら北へ進んだ後、17日には進路を西に変えて、18日には非常に強い勢力となって宮古島の南南東に達した。その後、石垣島に接近し、更に発達しながら八重山諸島の南海上を西に進み、19日には与那国島の南東を西に進んだ。沖縄県の一部では18日から19日にかけて暴風や大雨、大しけとなった。

この台風の影響により、沖縄県では、電力障害や住家の一部損壊、交通障害等が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

9月18日

台風第11号は宮古島の南東を西に進んだ。沖縄県八重山郡竹富町志多阿原(シタハル)で22時35分に53.5メートルの最大瞬間風速を観測したほか、沖縄県の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。また、先島諸島付近では有義波高が9メートルを超える猛烈なしけとなった。

[主な最大風速]

沖縄県八重山郡竹富町志多阿原(シタハル)	北北東	41.2メートル	[22:37]
沖縄県宮古島市下地(シモジ)	南東	24.5メートル	[21:25]

9月19日

台風第11号は石垣島の南西を西に進んだ。沖縄県の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、沖縄県八重山郡竹富町志多阿原(シタハル)で1時43分に63.8メートルの最大瞬間風速を観測したほか、沖縄県の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。先島諸島付近では有義波高が6メートルを超える大しけとなった。

[主な日降水量]

沖縄県 八重山郡竹富町 西表島(イホモジマ)	146.0ミリ
------------------------	---------

[主な最大風速]

沖縄県八重山郡竹富町志多阿原(シアハル)	南南東	48.9メートル	[01:44]
沖縄県石垣市石垣島(イカギマ)	東南東	33.6メートル	[01:06]

(17) 9月23日：西日本から東日本（落雷）＜前線＞

本州付近に前線が停滞し、西日本から東日本にかけて大気の状態が不安定となった。17時59分頃、千葉県いすみ市では、小学校のグラウンドにおける祭礼の最中に落雷があり、重症2名を含む34名の負傷者が発生した。また、香川県や兵庫県の淡路島、愛知県などでは、落雷の影響による停電や住家火災が発生した。また、神奈川県足柄上郡山北町丹沢湖(タザワコ)では23日11時25分までの1時間に77.0ミリ、大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキノサ)では3時31分までの1時間に75.5ミリの非常に激しい雨が降った。(被害の状況は気象庁調べによる)

(18) 10月18日～25日：沖縄・奄美から東日本（大雨）＜前線、低気圧＞

10月18日から25日にかけて、南西諸島から本州の南海上に前線が停滞し、南シナ海にあった台風第13号の東側で非常に湿った空気が前線付近に流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、10月20日には奄美地方で所により日降水量が600ミリを超える記録的な大雨となったほか、南西諸島から西日本の一部で大雨となった。

この大雨により、鹿児島県奄美市と龍郷町をあわせて3名の死者が発生したほか、住家の浸水が886棟、住家の全壊・半壊・一部損壊が約500棟に上ったほか、道路損壊等による集落の孤立や通信の断絶、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。(被害の状況は内閣府(防災担当)(平成22年12月1日現在)による)

10月18日

三陸沖に低気圧があつて、伴う前線が日本の南海上から三陸沖にのび、前線付近で雨となった。

[主な日降水量]

東京都八丈町八丈島(ハチジヨウジマ)	82.5ミリ	沖縄県島尻郡南大東村南大東(ミナミダイトリ)	59.0ミリ
--------------------	--------	------------------------	--------

10月19日

前線が九州の南海上から本州の南海上にのびて停滞し、沖縄県、鹿児島県および東京都の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県国頭郡東村東(ヒガシ)	139.5ミリ	東京都八丈町八丈島(ハチジヨウジマ)	115.0ミリ
鹿児島県大島郡天城町天城(アマキ)	105.5ミリ		

10月20日

前線が南西諸島から本州の南海上にのびて停滞し、鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋(コニヤ)で20日13時05分までの1時間に89.5ミリの猛烈な雨が、鹿児島県奄美市名瀬(ナゼ)で20日16時41分までの1時間降水量が年間の観測史上1位となる78.5ミリの非常に激しい雨が降った。日降水量は、鹿児島県奄美市名瀬(ナゼ)で観測史上1位となる622.0ミリとなったほか、沖縄県の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

鹿児島県奄美市名瀬(ナゼ)	622.0ミリ	沖縄県石垣市真栄里(マエサト)	152.0ミリ
---------------	---------	-----------------	---------

10月21日

前線が南西諸島から本州の南海上にのびて停滞し、沖縄県、鹿児島県および東京都の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県石垣市川平(カビラ) 138.5 ミリ 東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 124.0 ミリ
鹿児島県大島郡和泊町沖永良部(キノエラブ) 106.5 ミリ

10月22日

前線が南西諸島から本州の南海上にのびて停滞し、沖縄県の一部で日降水量が 200 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県宮古郡多良間村仲筋(ナカズ) 270.0 ミリ 沖縄県石垣市真栄里(マエサト) 244.0 ミリ

10月23日

前線が南西諸島から本州の南海上にのびて停滞し、沖縄県の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

沖縄県石垣市川平(カビラ) 159.0 ミリ 沖縄県石垣市真栄里(マエサト) 151.5 ミリ

10月24日

前線が華中から九州の南海上にのび、前線上の東シナ海で低気圧が発生して四国沖に進み、鹿児島県、宮崎県および高知県の一部で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

宮崎県宮崎市青島(アオシマ) 220.5 ミリ 鹿児島県肝属郡肝付町内之浦(ウチノウラ) 155.0 ミリ
高知県室戸市佐喜浜(サキハマ) 129.0 ミリ

10月25日

四国沖の低気圧が三陸沖に進み、伴う前線が本州の南岸から三陸沖にのび、前線付近で雨となった。

[主な日降水量]

鹿児島県薩摩川内市川内(セウダイ) 45.5 ミリ 宮崎県えびの市えびの(エビノ) 36.0 ミリ

(19) 11月30日：富山県(なだれ) <高気圧>

28日から29日にかけて寒冷前線が通過し、その後冬型の気圧配置となって、北陸地方から北日本の日本海側の山地では積雪が増えた。8時55分ごろ、立山町芦峯寺の室堂平の大谷付近(標高2400m)でスノーボードやスキーをしていた6人が雪崩に巻き込まれた。雪崩は立山有料道路に沿って層厚1m、幅約100mにわたり発生した。富山県防災・危機管理課によると6名のうち、生き埋めとなった3名が県消防防災ヘリにより救出・搬送されたが、そのうち、2名は心肺停止状態であり、その後1名の死亡を確認、1名は蘇生したが、12月2日午前に死亡した。12月2日現在、このなだれによる人的被害は2名死亡、3名重傷、1名軽傷となった。(被害の状況は気象庁調べによる)

(20) 12月2日～4日：西日本から北日本(大雨、突風、暴風) <低気圧、前線>

2日から3日にかけて、低気圧が発達しながら東シナ海から日本海中部を通過して網走沖に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。また、4日には強い冬型の気圧配置となった。このため西日本から東日本の広い範囲で大雨や暴風となり、また、東日本から北日本の日本海側の一部では大しけとなった。

この大雨および低気圧の影響で、東京都で排水作業中の事故により1名が死亡したほか、暴風と突風により10数名が負傷した。また、住家の一部損壊や船舶の転覆、農業被害、交通障害、電力障害が発生し

た。(被害の状況は気象庁調べによる)

12月2日

東シナ海の低気圧が中国地方に進み、伴う前線が九州を通過した。四国地方および東海地方の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

徳島県海部郡海陽町海陽(カイヨウ)	147.0 ミリ	三重県多気郡大台町宮川(ミヤガリ)	135.0 ミリ
高知県南国市南国日章(ナノクニシヨウ)	117.0 ミリ		

12月3日

山陰沖の低気圧が北海道の西海上に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。神奈川県海老名市海老名(エビナ)では7時26分までの1時間に75.5ミリの非常に激しい雨が降ったほか、東日本から北日本の一部で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、西日本から北日本の一部で、最大風速が20メートルを超える暴風となった。北海道の太平洋沿岸の一部では有義波高が6メートルを超える大しけとなった。

15時45分頃に新潟市中央区で突風が発生し、ガラス損壊とそれにより7名が負傷する等の被害が発生した。また、同日の15時半過ぎに、新潟市西区五十嵐中島でも突風が発生し、住家一部損壊等の被害が発生した。これらの突風は、現地調査の結果、竜巻と推定され、新潟市中央区の竜巻はF1、新潟市西区五十嵐中島の竜巻はF0と推定される。このほか、千葉県鴨川市(2時30分頃、8時30分頃)、静岡県御前崎市(5時30分頃)、静岡県牧之原市(5時42分頃)、神奈川県藤沢市・鎌倉市・横浜市(7時20分から8時10分にかけて)、千葉県松戸市・柏市(7時50分過ぎから8時頃にかけて)、茨城県牛久市(8時20分頃)、東京都三宅村(8時30分頃)、新潟県燕市(15時30分頃)など、いずれも寒冷前線に伴う発達した積乱雲が通過した時刻付近で、各地で突風による被害が発生した。

[主な日降水量]

静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	163.0 ミリ	茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	147.0 ミリ
神奈川県海老名市海老名(エビナ)	144.0 ミリ	北海道伊達市大滝(オオタキ)	140.0 ミリ
宮城県栗原市駒ノ湯(コマノユ)	124.5 ミリ	福島県いわき市山田(ヤマダ)	122.5 ミリ
岩手県一関市祭時(マツルヘ)	119.5 ミリ	北海道斜里郡斜里町宇登呂(ウトロ)	114.5 ミリ
千葉県夷隅郡大多喜町大多喜(オオタキ)	108.5 ミリ	北海道河東郡上士幌町糠平(ヌカヒラ)	104.0 ミリ
東京都世田谷区世田谷(セタガヤ)	101.5 ミリ		

[主な最大風速]

山形県酒田市飛島(トビシマ)	西	26.3 メートル	[23:36]
高知県室戸市室戸岬(ムロシキ)	西北西	25.1 メートル	[12:26]
東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	南	22.6 メートル	[07:33]
兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	西南西	22.3 メートル	[13:39]
新潟県新潟市東区松浜(マツハマ)	西	21.9 メートル	[22:24]
北海道根室市納沙布(ナサブ)	東南東	21.5 メートル	[18:03]
和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	西北西	21.5 メートル	[12:56]
愛媛県松山市松山南吉田(マツヤマミナヨシダ)	西	21.5 メートル	[10:58]
岩手県宮古市宮古(ミヤコ)	南南東	20.9 メートル	[11:02]
東京都江戸川区江戸川臨海(エドガリシカイ)	南西	20.8 メートル	[16:59]
大阪府泉南郡田尻町関空島(カンクウジマ)	西	20.5 メートル	[13:21]

鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	西	20.5メートル	[11:54]
石川県金沢市金沢(カザリ)	西	20.4メートル	[13:38]

12月4日

北海道の西海上の低気圧が網走沖に進んで発達し、日本付近は冬型の気圧配置となった。北日本の一部と新潟県の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となったほか、北海道の太平洋沿岸の一部と北日本と東日本の日本海側の一部で有義波高が6メートルを超える大しけとなった。

[主な最大風速]

北海道幌泉郡えりも町えりも岬(エリモサキ)	西	32.4メートル	[11:53]
山形県酒田市飛島(トビシマ)	西	26.7メートル	[05:47]
青森県八戸市八戸(ハチノ)	西南西	23.5メートル	[13:17]
新潟県佐渡市相川(アハカリ)	西北西	22.3メートル	[03:58]
宮城県伊具郡丸森町丸森(マルモリ)	西	20.4メートル	[12:33]

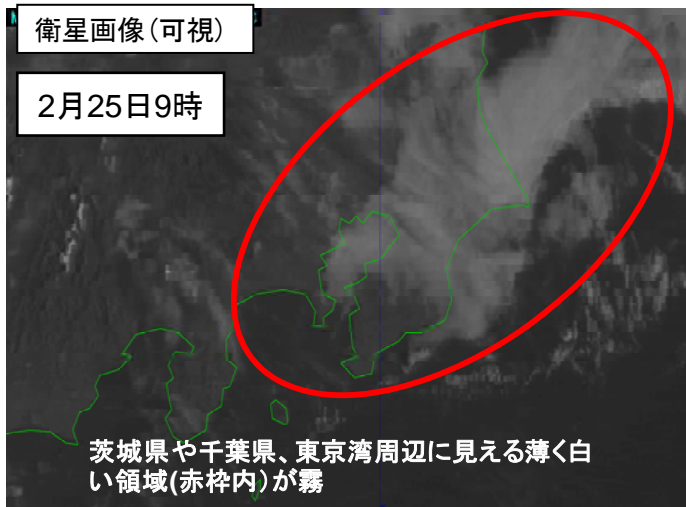
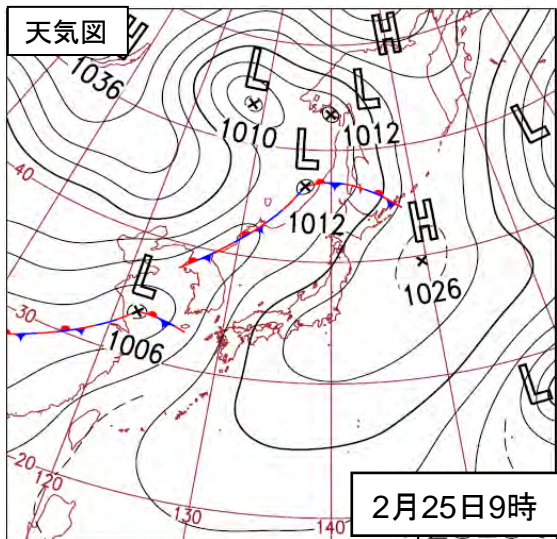
■平成22年に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	藤田 スケール	気象状況
7月24日 18時20分頃	ダウンバースト	長野県 上田市	負傷者3名、住家一部損壊1棟、非住家損壊等	F0	暖気の移流
9月7日 3時45分頃	竜巻	秋田県 秋田市	負傷者1名、住家一部損壊等	F0	停滞前線
9月23日 6時40分過ぎ	竜巻	香川県 綾歌郡綾川町	負傷者1名、住家一部損壊等	F1	停滞前線
10月15日 17時過ぎ	竜巻	新潟県 胎内市	負傷者3名、住家一部損壊等	F1	気圧の谷 寒気の移流
11月29日 9時過ぎ	竜巻	石川県 羽咋郡志賀町	負傷者1名等	F0	寒気の移流
12月3日 7時30分過ぎ	竜巻	神奈川県 鎌倉市	住家半壊2棟、住家一部損壊等	F0～F1	日本海低気圧 暖気の移流
12月3日 15時45分過ぎ	竜巻	新潟県 新潟市中央区	負傷者7名	F1	気圧の谷 寒気の移流
12月9日 17時過ぎ	竜巻	新潟県 上越市	負傷者1名	F0～F1	日本海低気圧 寒気の移流

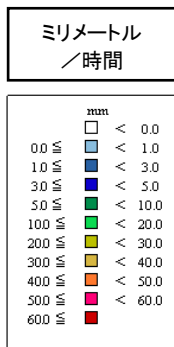
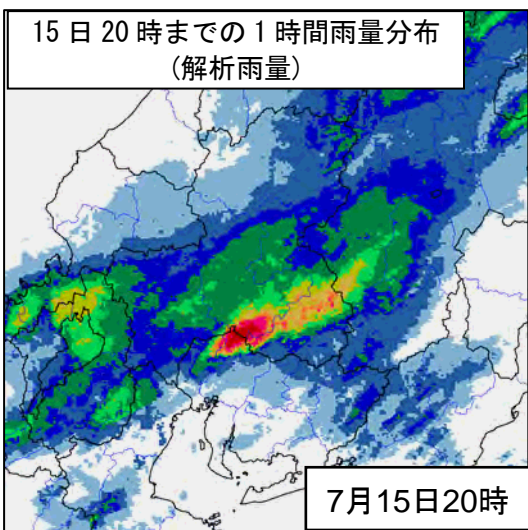
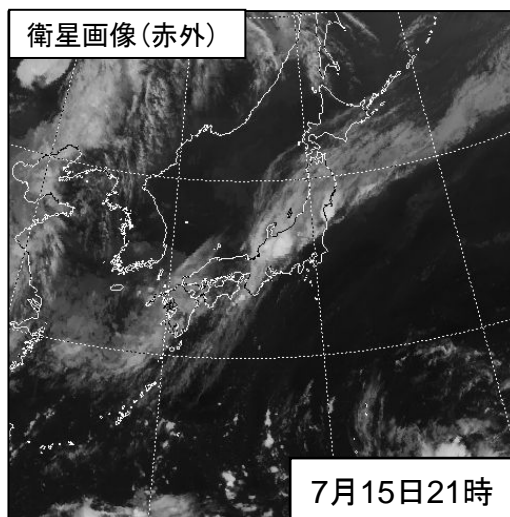
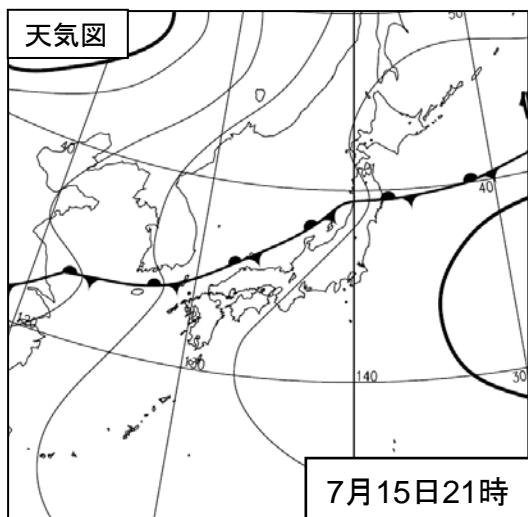
※被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したもの

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。
(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

災害番号（3） 9時の天気図及び衛星可視画像 [期間：2月25日]

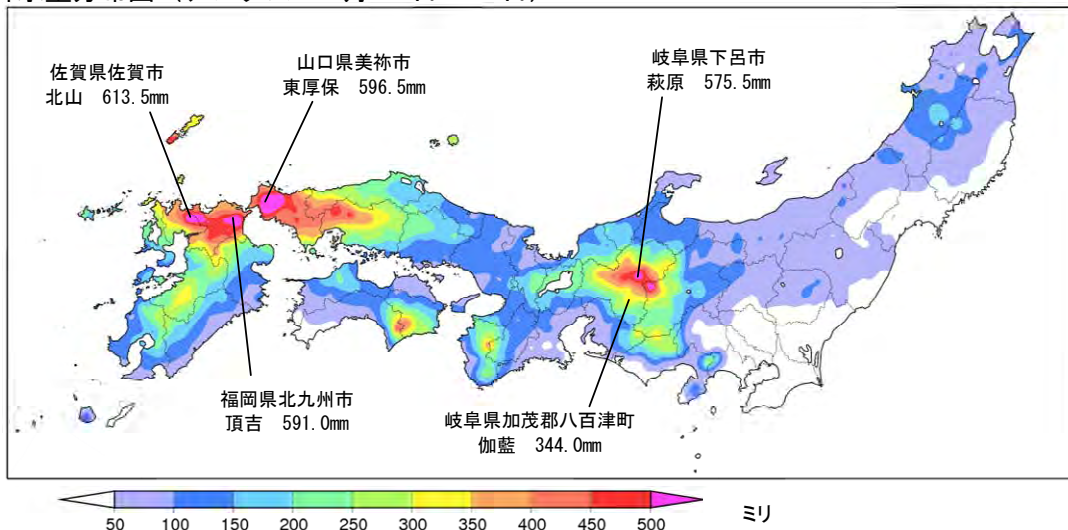


災害番号（9） 天気図等 [期間：7月15日]

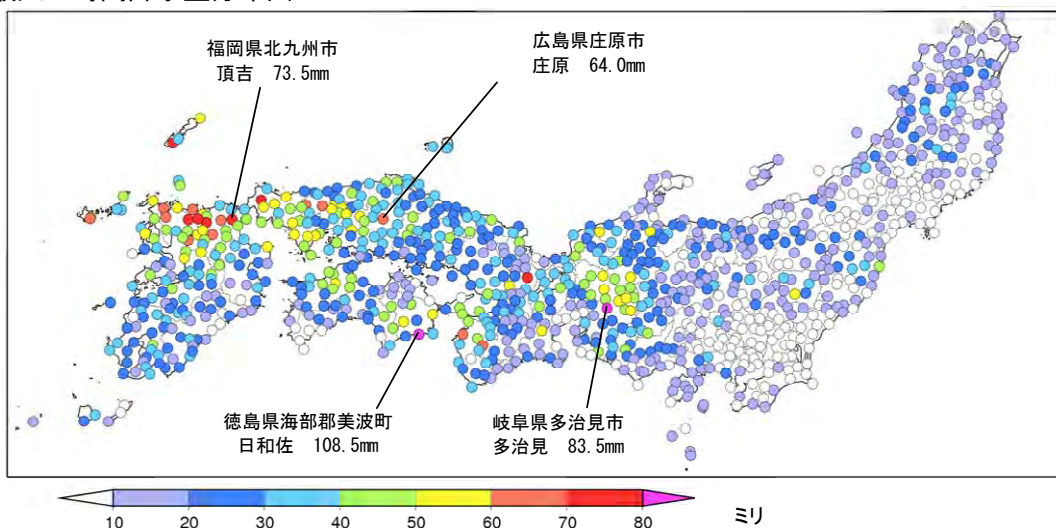


災害番号（9）総降水量分布図等 [期間：7月10日～7月16日]

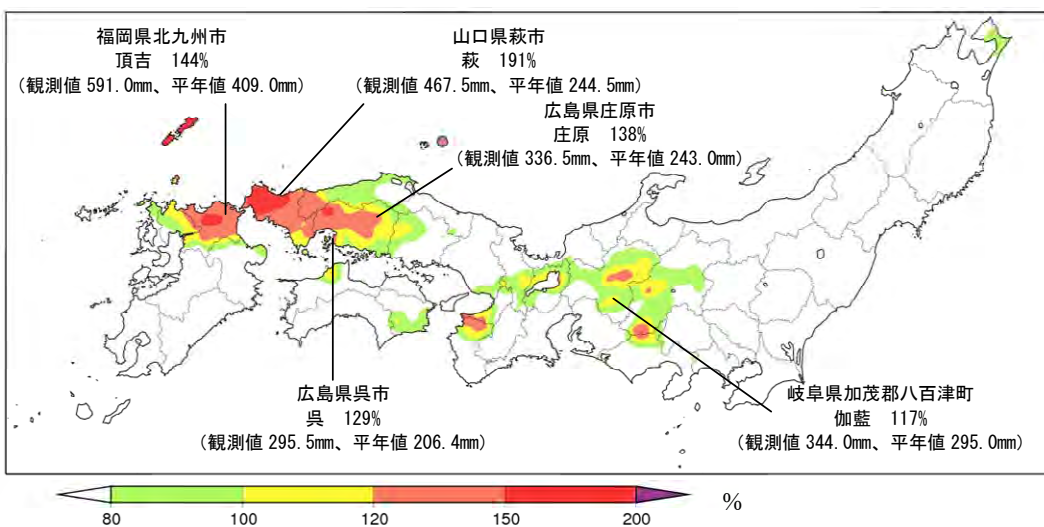
期間降水量分布図（アメダス：7月10日～16日）



期間最大1時間降水量分布図

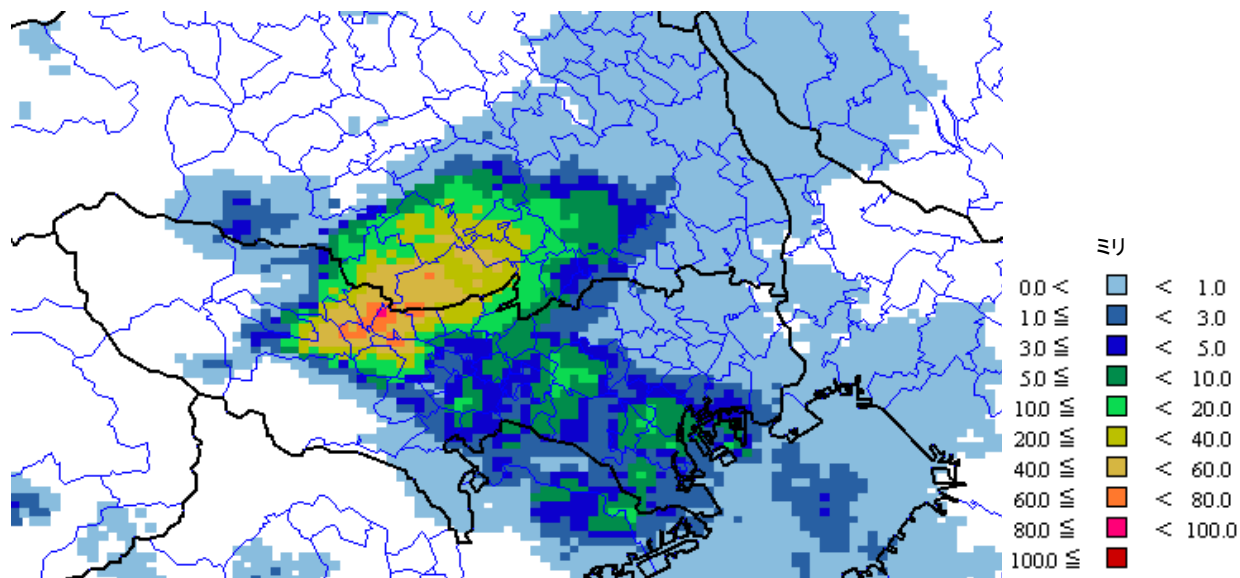


期間降水量と7月の月降水量平年値との比較分布図

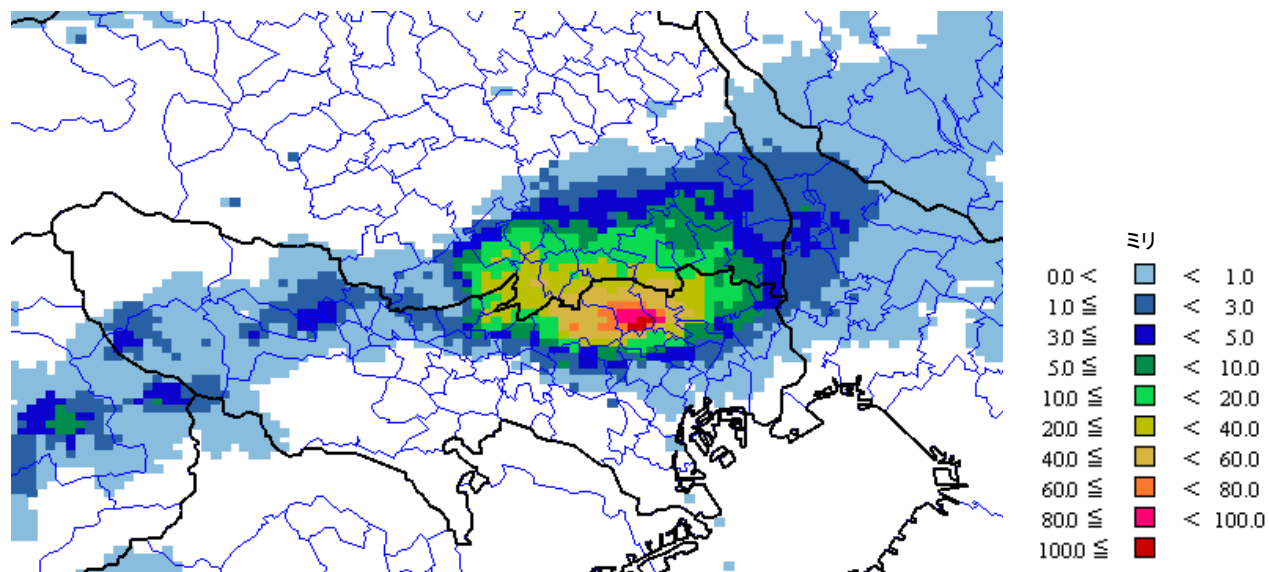


災害番号（9）解析雨量図 [期間：7月5日]

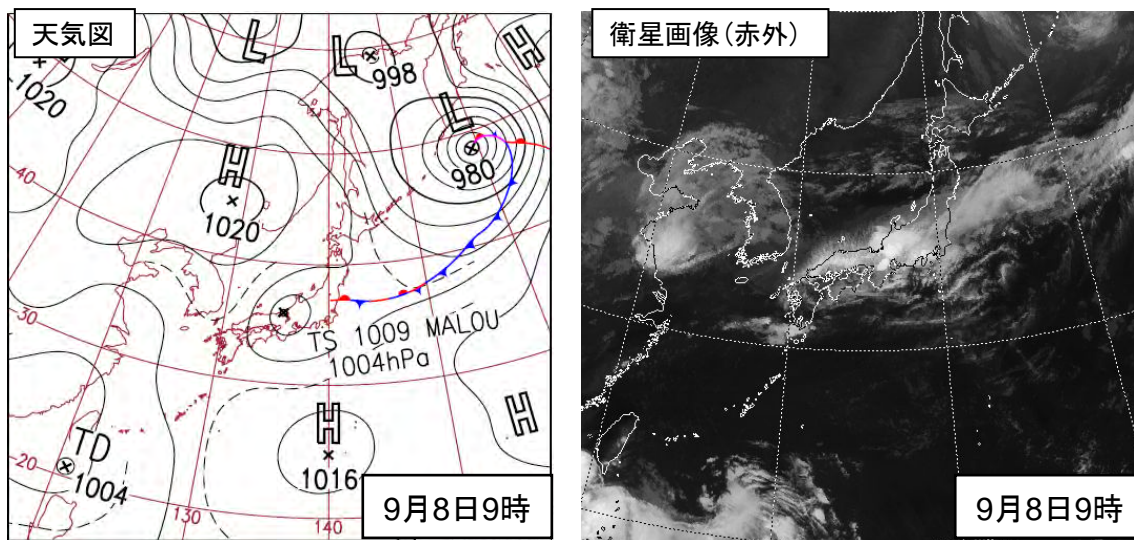
2010年7月5日18時00分までの1時間降水量分布図



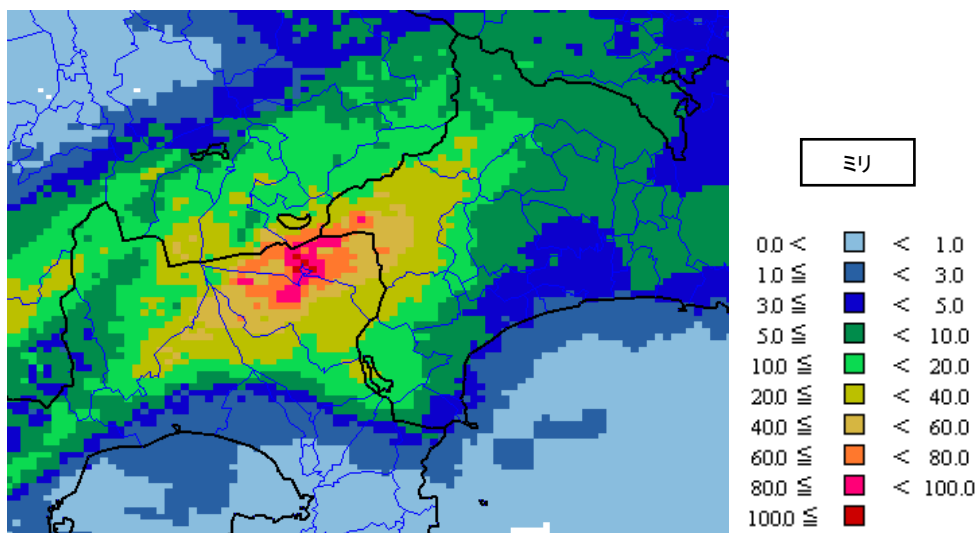
2010年7月5日20時30分までの1時間降水量分布図



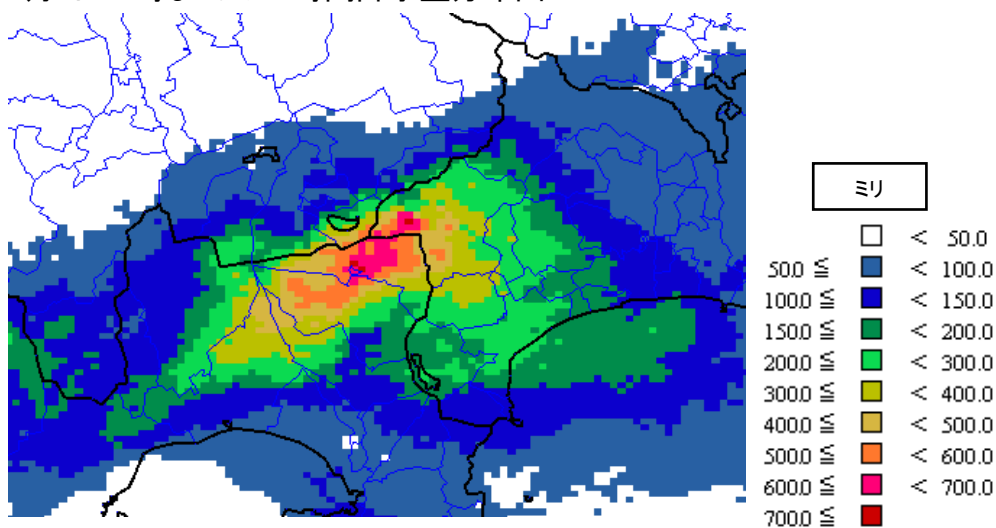
災害番号（15）天気図、衛星赤外画像等 [期間：9月8日]



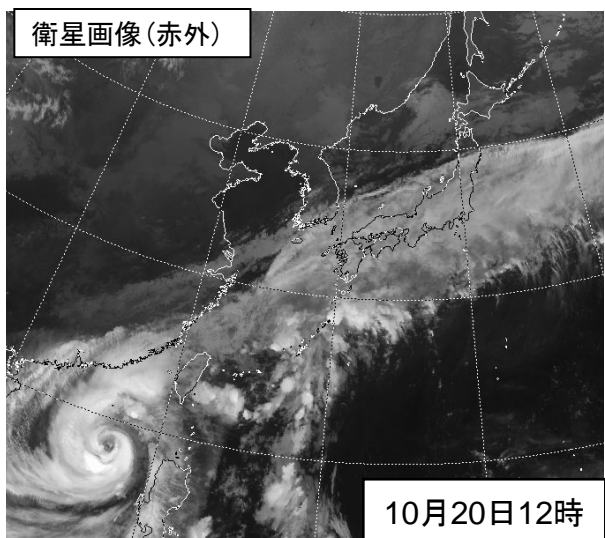
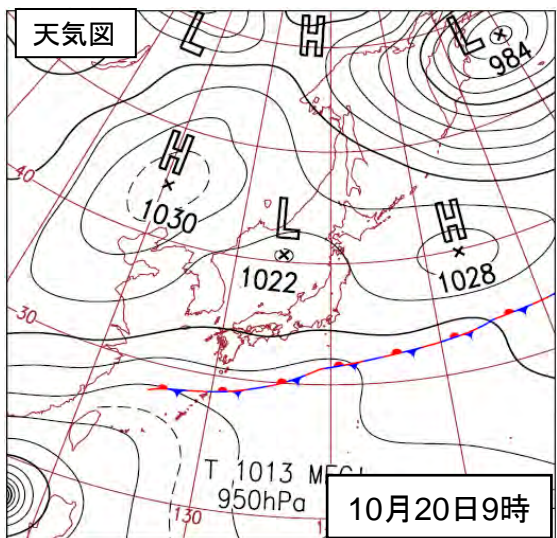
9月8日10時までの1時間降水量分布図



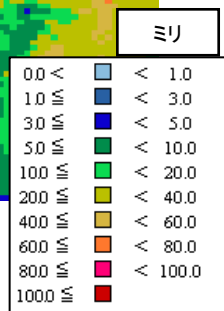
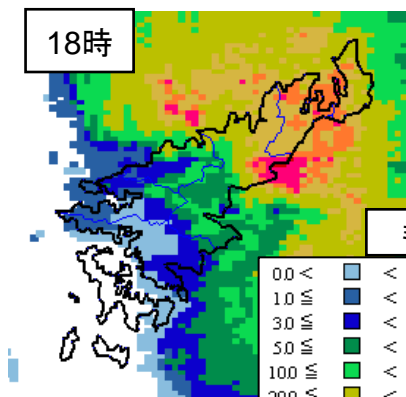
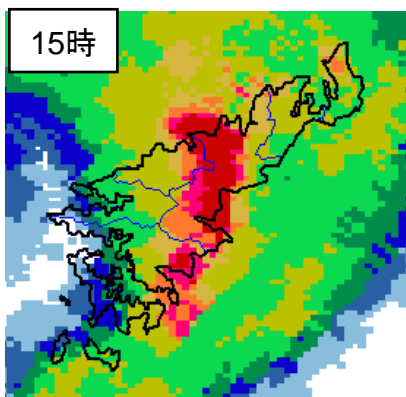
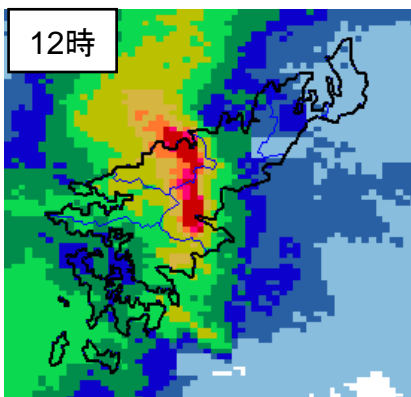
9月8日24時までの24時間降水量分布図



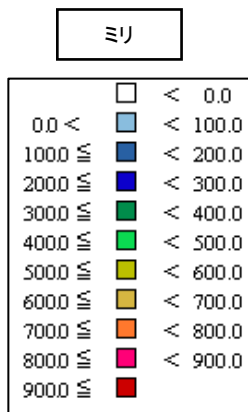
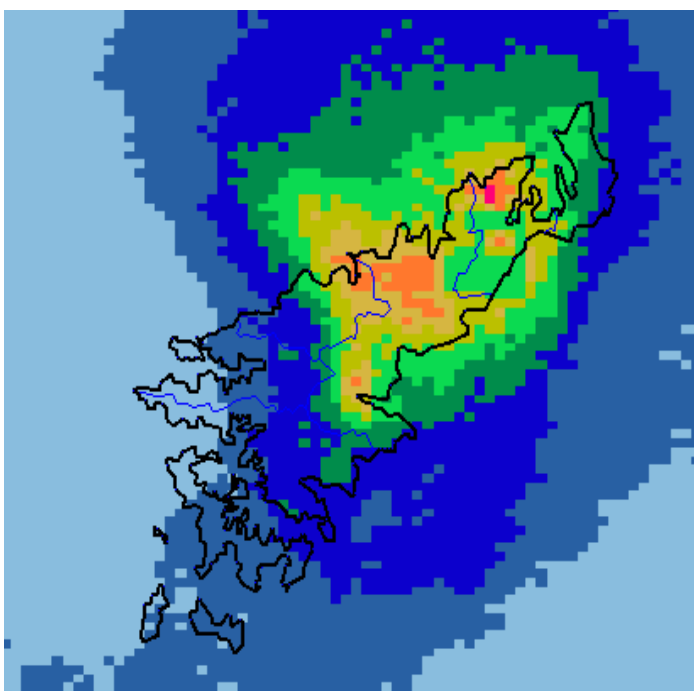
災害番号（18）天気図、衛星赤外画像等 [期間：10月20日]



10月20日の前1時間降水量分布図



10月20日0時から24時の降水量（解析雨量）



資料 1-1 平成 22 年（2010 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震を除く）

<内閣府作成資料等から引用>

■激甚災害(本激：地域を特定せず、災害そのものを指定)

期間	災害原因	気象要因
6/11～ 7/19	豪雨	梅雨前線

※本激は農地等

■局地激甚災害(局激：市町村単位で災害を指定)

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
5/22～5/24	豪雨	低気圧、前線	岐阜県	揖斐川町
			兵庫県	姫路市、西脇市
			和歌山県	日高川町、串本町
			山口県	岩国市
			高知県	馬路村
			熊本県	天草市
6/17～7/17※	豪雨	梅雨前線	岩手県	葛巻町、岩手町
			岐阜県	八百津町
			岡山県	新見市
			広島県	呉市、庄原市、東広島市、北広島町
			山口県	美祢市
			鹿児島県	曾於市
7/28～7/30	豪雨	低気圧、前線	北海道	神恵内村、島牧村、松前町、古平町
8/9～8/16	豪雨、 暴風雨	低気圧、台風第4号	北海道	中川町、遠別町、福島町、音威子府村
			富山県	富山市
			大阪府	茨木市、豊能町
			鹿児島県	奄美市、瀬戸内町
8/23～8/24	豪雨	低気圧、前線	北海道	美瑛町
8/26	豪雨	大気不安定	富山県	富山市
8/30～9/1	豪雨	低気圧、前線	青森県	大鰐町
			秋田県	三種町
9/4～9/8	豪雨、 暴風雨	台風第9号	神奈川県	山北町
			静岡県	小山町
			石川県	能登町
9/22～9/23	豪雨	前線	福島県	喜多方市
			新潟県	糸魚川市、阿賀町
10/18～10/25	豪雨	低気圧、前線	鹿児島県	奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町

※本激は農地等、局激は公共土木、中小企業

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定され政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

<内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用>

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 本激と局激の違い局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 22 年(2010 年)台風の概要

2-1 平成 22 年(2010 年)に発生した台風

2010 年の台風の発生数は 14 個（平年は 26.7 個）で、1998 年の 16 個を下回り 1951 年の統計開始以来の最少を記録した。接近数は 7 個と平年（10.8 個）を下回った。

台風の発生数が少ないこともあり、日本への接近数は 7 個（平年値 10.8 個）、上陸数は、台風第 4 号と第 9 号の 2 個（平年値 2.6 個）といずれも平年値を下回った。地域別にみると伊豆諸島・小笠原諸島への接近が 2 個（平年値 5.0 個）と少なく、上陸した台風はいずれも日本海側からの上陸となった。

表 2.1 平成 22 年(2010 年)の台風発生数、日本への上陸数*¹、日本への接近数*²と平年値及び平成 21 年(2009 年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	
平年値	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
平成 21 年 (2009 年)	発生数					2	2	2	5	7	3	1		22
	上陸数										1			1
	接近数					1			3	3	2			8
平成 22 年 (2010 年)	発生数			1				2	5	4	2			14
	上陸数								1	1				2
	接近数								3	4	1			7

(注)・平年値は、昭和 46 年(1971 年)～平成 12 年(2000 年)の 30 年平均。

・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*¹ 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*² 台風の中心が、日本から概ね 300km 以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (0)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (-)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (-)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (-)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (0)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (0)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H. 1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (0)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (0)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (0)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (-)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
平年値 1971-2000	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7

台風の発生月:熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。
合計の(-)は25個未満、(0)は25個以上30個未満、(+)は30個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
平年値 1971-2000	-	-	-	-	-	0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0	-	2.6

台風の日本への上陸:台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
平年値	-	-	-	0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
1971-2000													

台風の接近: 台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
平年値	-	-	-	-	0.0	0.3	1.2	1.6	1.6	0.7	0.0	-	5.2
1971-2000													

台風の北海道・本州・四国・九州への接近: 台風の中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成22年(2010年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置				消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時		
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧		風速		強風域半径		月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経
								月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km							
1	OMAIS	3 22 21	8.4	141.7	3 24 21	13.6	133.4	3 25 21	998	3 26 03	20	3 26 03	NE:90 SW:70	3 26 09	17.4	131.9	TD	3 26 21	17.7	132.1
2	CONSON	7 11 21	13.9	132.6	7 12 09	14.3	130.3	7 17 03	970	7 16 15	35	7 17 03	E:180 W:150	7 18 09	21.0	105.0	TD	7 18 09	21.0	105.0
3	CHANTHU	7 17 15	15.8	123.1	7 19 21	15.9	116.6	7 22 15	970	7 22 15	35	7 22 09	SE:160 NW:100	7 23 15	23.5	107.0	TD	7 23 21	23.5	106.5
4	DIANMU	8 7 09	20.7	124.2	8 8 21	23.6	124.9	8 11 03	985	8 11 03	25	8 10 21	SE:280 NW:100	8 13 03	41.0	146.0	L	8 13 09	43.4	151.2
5	MINDULLE	8 22 09	16.4	115.1	8 23 09	15.9	111.5	8 24 15	985	8 24 15	25	8 24 15	SE:150 NW:100	8 25 09	19.4	104.1	TD	8 25 09	19.4	104.1
6	LIONROCK	8 28 03	16.5	118.0	8 29 03	19.2	116.5	9 1 03	985	9 1 03	25	9 1 21	SE:140 NW:60	9 2 15	24.3	116.1	TD	9 4 15	22.5	111.2
7	KOMPASU	8 28 21	18.4	139.0	8 30 03	22.2	133.2	9 1 03	960	9 1 03	40	9 2 09	E:140 W:90	9 3 03	40.7	134.8	TD	9 6 21		域外
8	NAMTHEUN	8 29 15	25.1	124.3	8 30 21	25.9	122.0	8 31 09	996	8 31 09	20	8 31 09	E:60 W:40	8 31 15	25.3	120.2	TD	8 31 21	25.2	119.8
9	MALOU	9 1 21	15.6	141.4	9 4 09	24.7	128.3	9 6 15	992	9 7 06	25	9 7 15	E:240 W:120	9 8 12	35.5	136.6	TD	9 10 15	33.7	148.2
10	MERANTI	9 7 09	22.5	123.8	9 9 03	20.8	119.6	9 10 03	985	9 10 03	30	9 10 03	SE:90 NW:70	9 10 21	28.0	119.0	TD	9 14 15	37.8	150.0
11	FANAPI	9 15 03	19.6	129.1	9 15 21	20.9	127.8	9 19 03	930	9 19 03	50	9 19 15	NE:200 SW:150	9 21 03	24.2	113.1	TD	9 21 21	24.3	110.1
12	MALAKAS	9 20 15	19.0	146.5	9 22 09	19.4	142.9	9 25 09	945	9 25 03	45	9 25 15	SE:450 NW:150	9 25 21	39.4	148.2	L	9 28 09		域外
13	MEGI	10 13 09	11.9	141.4	10 13 21	12.0	140.9	10 18 09	885	10 18 09	65	10 18 09	NE:280 SW:200	10 24 03	24.9	118.0	TD	10 24 15	26.1	118.3
14	CHABA	10 24 03	15.0	133.6	10 25 03	16.8	131.2	10 28 18	930	10 28 21	50	10 28 18	SE:200 NW:180	10 31 03	36.0	144.0	L	11 1 09	39.9	150.9

表中の日時はすべて日本時 (JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

2-2 平成 22 年(2010 年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。

(1) 台風第4号(1004DIANMU)

2010年8月7日09時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、8日21時に宮古島の南海上で台風第4号となった。台風は、宮古島に接近した後、9日12時に東シナ海で勢力が最大となった。台風は、東北東に向きを変え、朝鮮半島の南岸を通り、12日17時頃に秋田県秋田市付近に上陸した。台風は、13日03時に北海道の南海上で温帯低気圧に変わり、13日15時に消滅した。

(2) 台風第6号(1006LIONROCK)

2010年8月28日03時にルソン島の西で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、29日03時に同海域で台風第6号となった。台風は、徐々に向きを東に変えた後、プラタス島付近を通過し、徐々に北西へ向きを変えて中国沿岸に達した。台風は、9月2日15時に熱帯低気圧に変わり、4日21時に消滅した。

(3) 台風第7号(1007KOMPASU)

2010年8月28日21時に沖ノ島島の南東で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、30日03時に同島の北西で台風第7号となった。台風は、北西の向きを維持して31日09時に南大東島の南海上で勢力が最大となった。台風は、勢力を保ったまま31日17時頃沖縄県沖縄本島北部を通過し、黄海で北東に向きを変えて朝鮮半島を通過した。台風は、9月3日03時に日本海で熱帯低気圧に変わり、渡島半島を通過した後、3日21時に北海道の南東海上で温帯低気圧に変わり、日本のはるか東海上で北北東に向きを変え、6日21時にベーリング海で経度180度線を越えた。

(4) 台風第8号(1008NAMTHEUN)

2010年8月29日15時に石垣島の北海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進んだ後、西南西へ向きを変え、30日21時に台湾の北海上で台風第8号となった。台風は、西南西の向きを維持し、31日15時に台湾海峡で熱帯低気圧に変わった後、9月1日03時に消滅した。

(5) 台風第9号(1009MALOU)

2010年9月1日21時にサイパンの西海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、4日09時に沖縄本島の南海上で台風第9号となった。台風は、転向しながら6日03時に東シナ海で勢力が最大となり、東に向きを変えながら7日11時半頃に長崎県対馬を通過し、8日11時頃福井県敦賀市付近に上陸した後、8日12時に熱帯低気圧に変わり、東日本を東南東に進んだ後、10日21時に日本の東海上で消滅した。

(6) 台風第10号(1010MEANTI)

2010年9月7日09時に西表島の南海上で発生した熱帯低気圧は南西へ進み、9日03時に南シナ海で台風第10号となった。台風は、急激に向きを北に変え、10日03時に同海域で勢力が

最大となった後、中国南部に上陸し、10日21時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、加速しながら北東へ進み、11日に東シナ海を通過し、朝鮮半島を通過した後12日09時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、東へ進んで日本海と東北地方を通り、14日21時に日本の東海上で消滅した。

(7) 台風第11号(1011 FANAPI)

2010年9月15日03時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、15日21時に沖縄の南海上で台風第11号となった。台風は、北に向きを変えた後、徐々に西へ向きを変え、19日00時に西表島の南海上で勢力が最大となった。台風は、西へ進路を保ち、台湾を通過した後、中国南部に上陸し、21日03時に香港の北で熱帯低気圧に変わり、22日03時に消滅した。

(8) 台風第12号(1012 MALAKAS)

2010年9月20日15時にマリアナ諸島付近で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと西へ移動し、22日09時にマリアナ諸島の西海上で台風第12号となった。台風は、北に向きを変え、25日03時に八丈島の南東海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に北東へ向きを変えながら進み、25日21時に日本の東海上で温帯低気圧となった。温帯低気圧は、東へ向きを変え、28日09時にベーリング海で経度180度線を越えた。

(9) 台風第14号(1014 CHABA)

2010年10月24日3時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、25日3時に同海域で台風第14号となった。台風は、徐々に北東へ向きを変え、28日18時に沖縄の南東海上で勢力が最大となった。台風は、北東の向きを維持しながら加速して日本の南海上を進み、31日3時に関東の東海上で温帯低気圧に変わり、11月1日15時に日本のはるか東海上で消滅した。

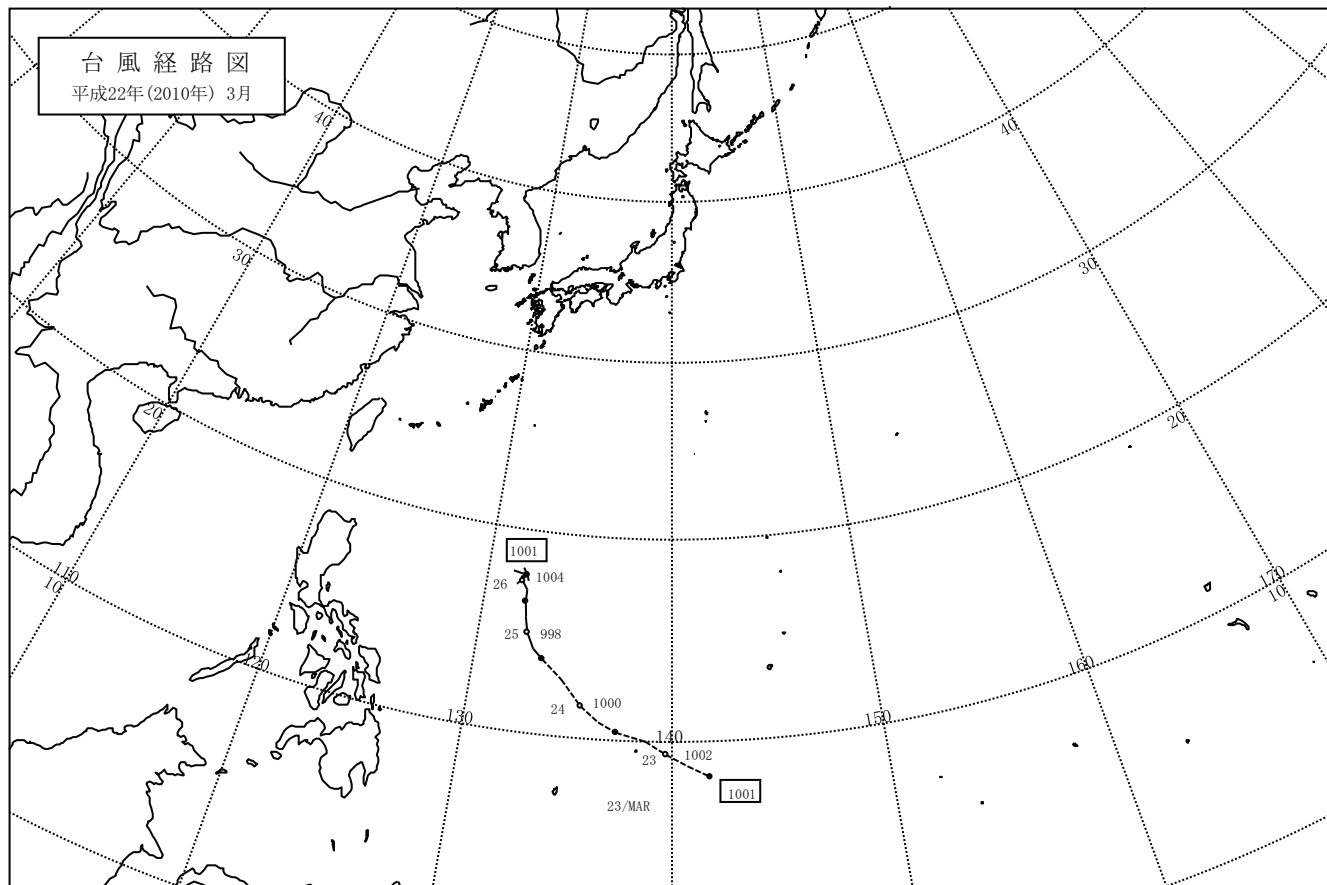
資料2-2-1 平成22年(2010年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響 (台風が中心が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風が中心が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
4	8/8	8/13	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信、伊豆諸島、北陸、北日本	8/8	8/13	沖縄、西日本、東海地方、関東甲信、北陸、北日本	8月12日17時頃、秋田県秋田市付近に上陸した。
6	9/1	9/2	沖縄				上陸または通過せず。
7	8/30	9/3	沖縄・奄美、九州、中国地方、北陸、北日本	8/30	9/1	沖縄・奄美	8月31日17時過ぎ、沖縄県沖縄本島北部を通過した。
8	8/30	8/31	沖縄	8/30	8/31	沖縄	上陸または通過せず。
9	9/4	9/8	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信、伊豆諸島、北陸、東北地方	9/4	9/8	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信、北陸	9月7日11時半頃、長崎県対馬を通過した。 9月8日11時頃、福井県敦賀市付近に上陸した。
10	9/9	9/10	沖縄				上陸または通過せず。
11	9/15	9/20	沖縄・奄美	9/17	9/19	沖縄	上陸または通過せず。
12	9/24	9/25	東海地方、関東甲信、伊豆諸島、小笠原諸島、東北地方	9/24	9/25	小笠原諸島	上陸または通過せず。
14	10/27	10/31	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信、伊豆諸島、北陸、東北地方	10/28	10/31	沖縄・奄美、近畿、東海地方、関東甲信、伊豆諸島、東北地方	上陸または通過せず。

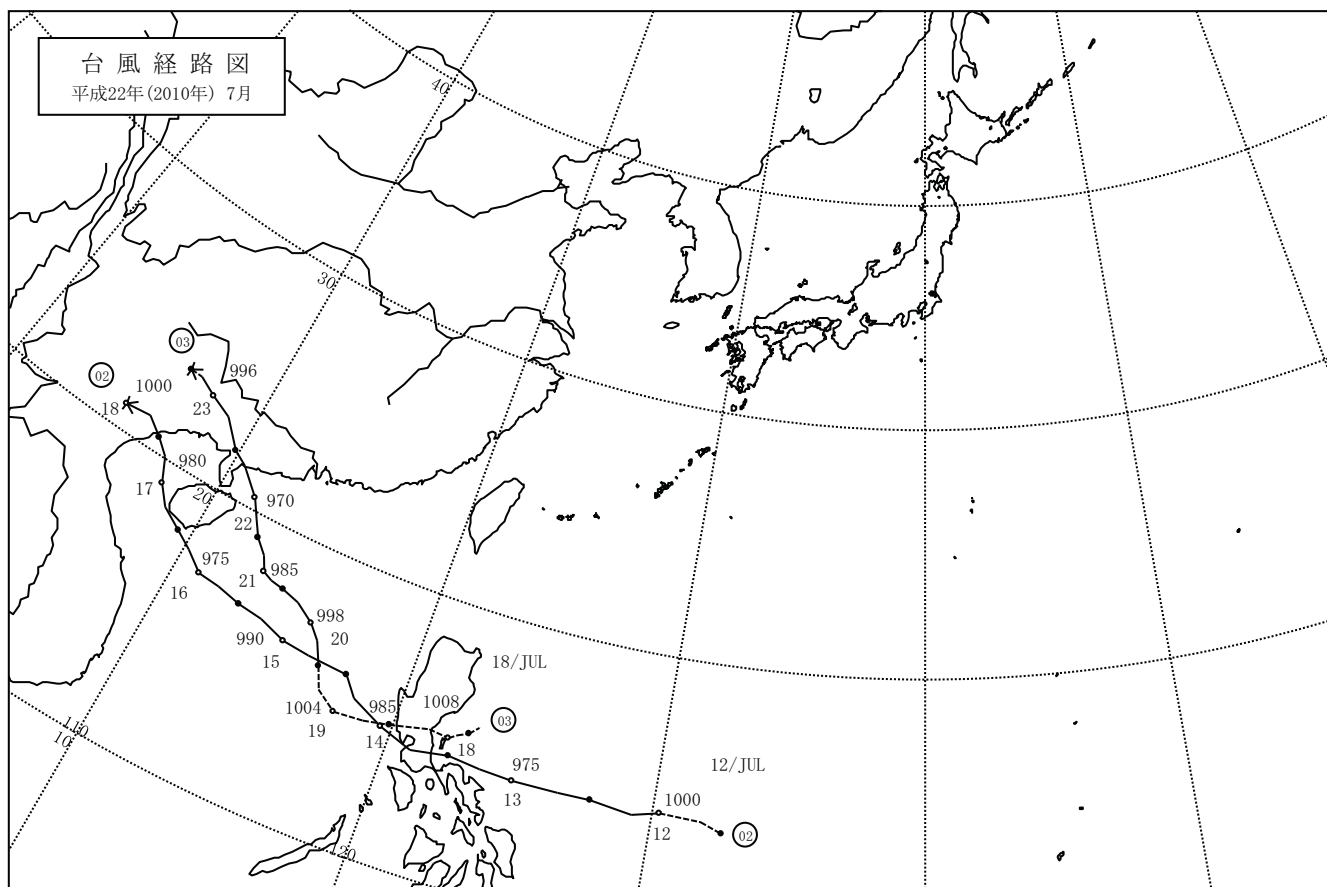
* 台風が中心が日本から概ね300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

* 台風が中心が日本から概ね500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

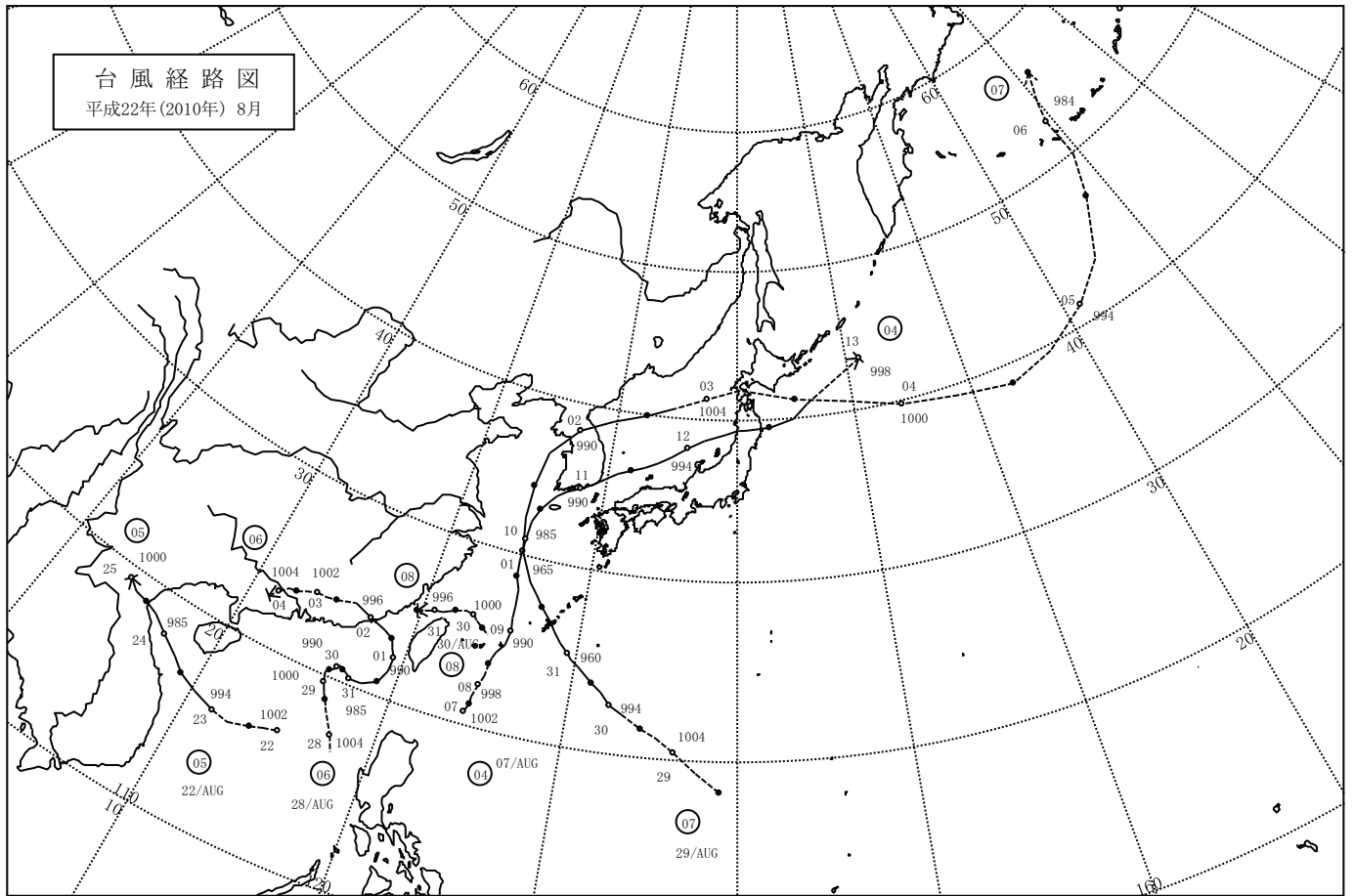
資料2-2-2 平成22年(2010年)に発生した台風の経路図



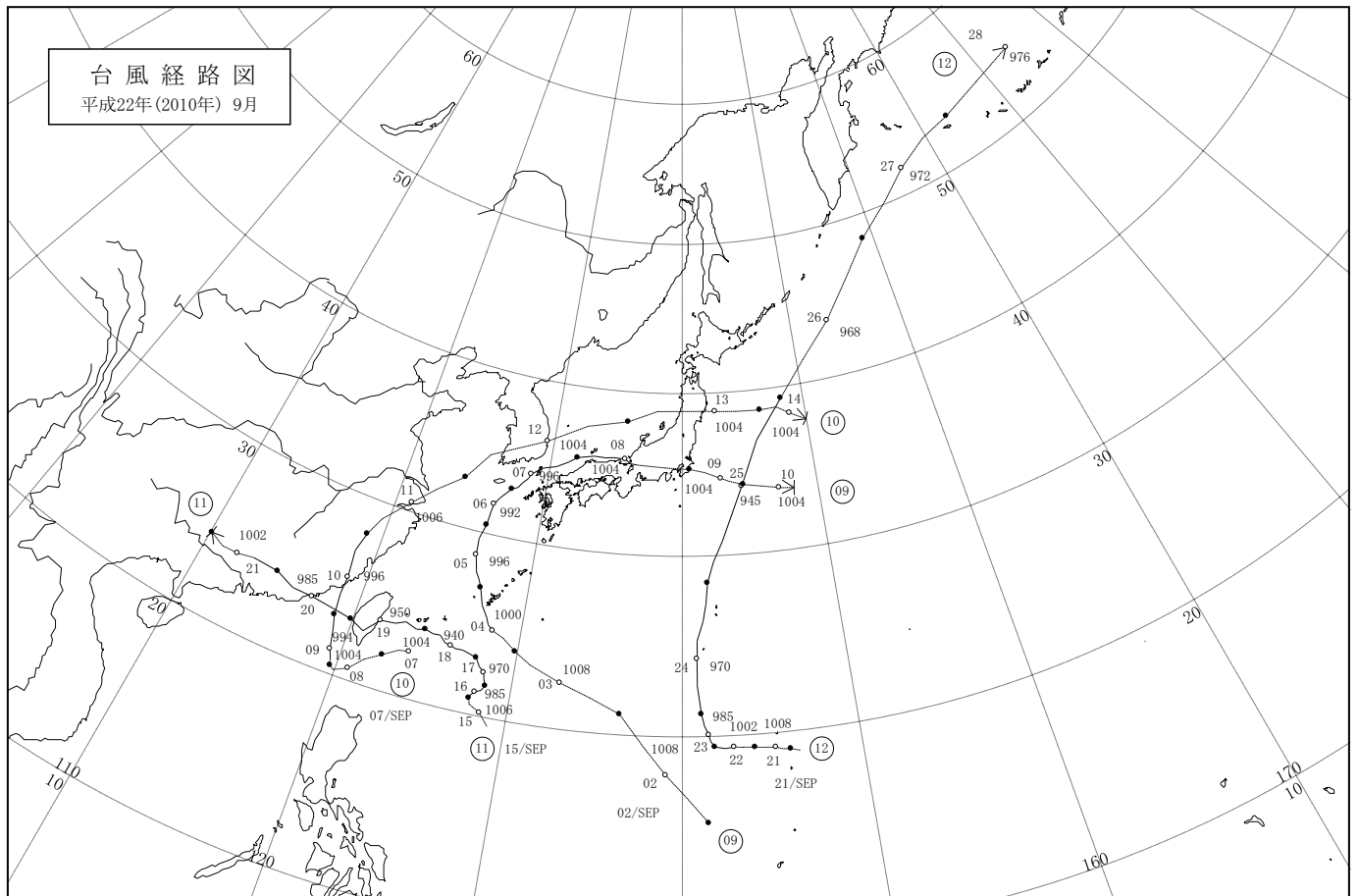
四角で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



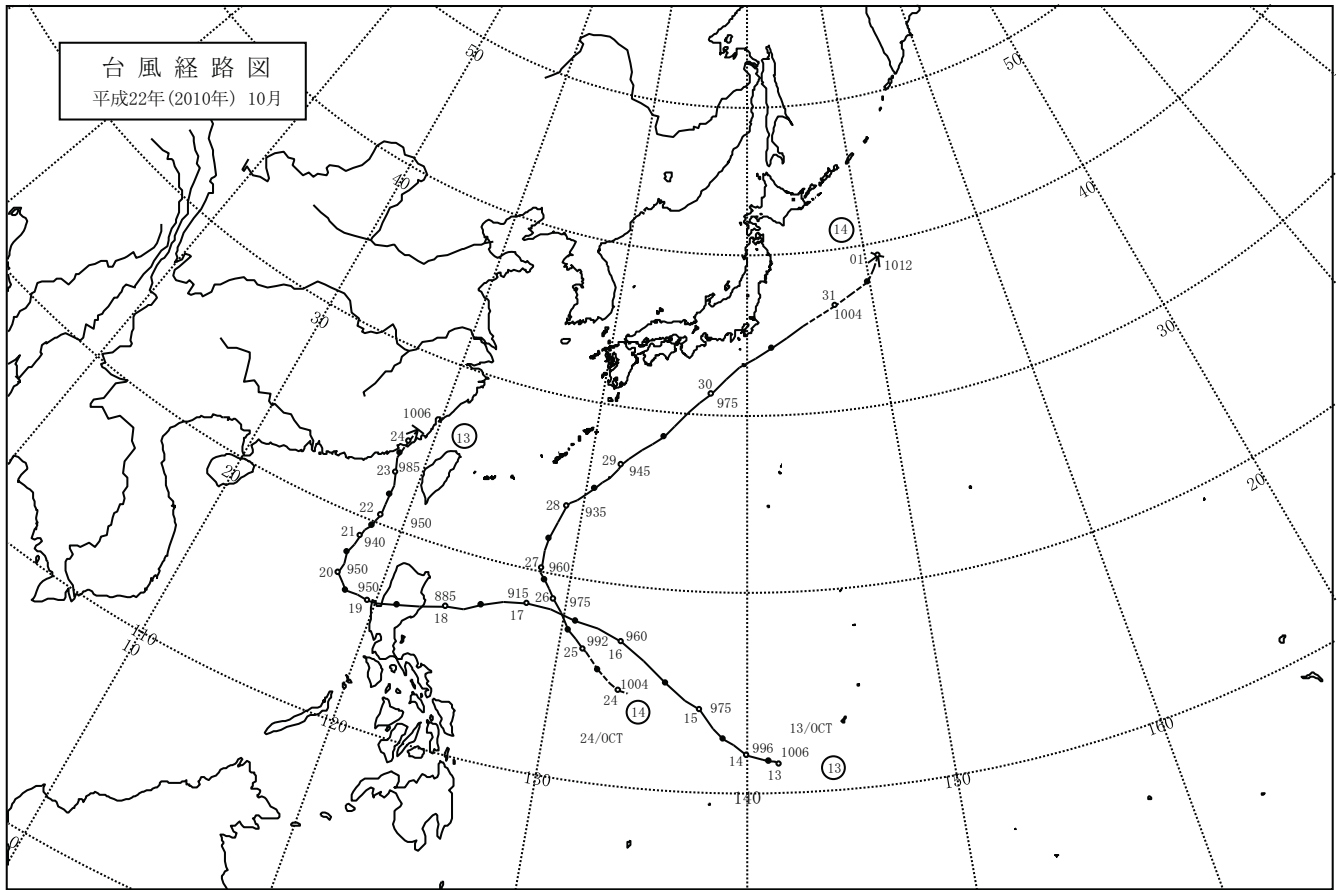
四角で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



四角で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。

3 平成22年（2010年）の天気概況

1月

冬型の気圧配置が続く（1日～4日）

1日は、網走沖の低気圧がほとんど停滞し、日本付近は冬型の気圧配置（以下、冬型と略す。）となった。北日本で雪が降り、西日本の日本海側と東日本の日本海側で雪や雨が降った。東日本の一部と北日本の一部では暴風や強風となった。その他の地方は曇りや晴れとなった。2日と3日は、北日本を中心に引き続き冬型となった。北日本で雪が降り、西日本の日本海側と東日本の日本海側で雪や雨が降った。九州南部地方は雨や曇りとなった。西日本の一部と北陸の一部では雷を伴い、北日本の一部と東日本の一部では強風となった日があった。沖縄の南海上に前線が停滞したため、南西諸島で雨が降った。その他の地方は曇りや晴れとなった。4日は、日本付近ははじめ冬型となり、北日本で雪が降った。黄海の低気圧が日本海中部へ進み、沖縄本島から東海道沖にかけて前線が発生した。東海地方と東日本の日本海側で雪や雨が降り、西日本で雨が降った。西日本の一部では雷を伴い、一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧の通過後、冬型の気圧配置となる（5日～10日）

5日は、沖縄本島から関東の東海上へのびる前線上の関東に低気圧が発生して三陸沖へ進み、日本海中部の低気圧が秋田沖へ進んで消滅した。北日本で雪が降り、西日本と東日本で雪や雨が降った。北陸の一部では雷を伴い、西日本から北日本にかけて一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、一部では強風をとった。6日は、三陸沖の低気圧が東へ進み、日本付近は冬型となった。北海道で雪が降り、西日本の日本海側や東日本の日本海側と東北地方で雪や雨が降り、西日本の太平洋側の一部では曇りとなった。東日本の一部と北日本の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降った。7日と8日は、日本付近は引き続き冬型となった。北日本で雪が降り、中国地方や近畿北部と東日本の日本海側で雪や雨が降った。北陸の一部では雷を伴った日があり、北海道の一部では強風となった日があった。湿った空気の影響で、南西諸島は雨や曇りとなった。その他の地方は曇りや晴れとなった。9日は、北海道の西海上の低気圧が北海道へ進んだ。北日本で雪が降り、中国地方や近畿北部と東日本の日本海側雪や雨が降った。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。10日は、北海道の低気圧が千島の東海上へ進んだ。北日本で雪が降り、東日本の日本海側で雪や雨が降った。西日本は雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧や前線が通過した後、冬型の気圧配置となる（11日～16日）

11日は、山陰沖に低気圧が発生して能登沖へ進み、華南から九州の南海上に停滞した前線が関東の東海上までのびた。南西諸島で雨が降り、西日本と北陸で雨や曇りとなり、東海地方と関東甲信地方で曇りとなった。上空の寒気の影響で、北海道で雪が降り、東北地方の日本海側で雪や雨が降った。東北地方の太平洋側は概ね晴れた。12日は、能登沖の低気圧が東へ進んで消滅し、沖縄の南海上から日本の東海上へのびる前線上の関東の東海上に低気圧が発生して三陸沖へ進んだ。日本海西部で低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。北海道の一部で雪が降り、西日本や東日本と東北地方で雪や雨が降り、南西諸島で雨が降った。南西諸島の一部と西日本の一部では強風となった。13日は、三陸沖の低気圧が千島の東海上へ進み、日本海中部の低気圧は東北地方へ進んで消滅した。日本付近は冬型となり、北海道で雪が降り、西日本から東北地方にかけて雪や雨が降った。南西諸島では曇りとなった。北陸の一部では大雪となり、西日本の一部と北陸の一部では雷を伴った。西日本の一部と東日本の一部で暴風や強風となり、北日本の一部では強風となった。14日と15日は、日本付近は引き続

き冬型となり、西日本の日本海側や東日本の日本海側と北日本で雪が降った。北陸の一部では雷を伴い、大雪となった日があった。西日本から北日本にかけての一部では強風となった日があった。その他の地方は曇りや晴れとなった。16日は、日本付近は引き続き冬型となった。東日本の日本海側の一部と北日本で雪が降り、山陰の一部と近畿で雪や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後低気圧が次々と通過（17日～21日）

17日は、北日本を中心に冬型となり、東北地方の日本海側と北海道で雪が降り、近畿と北陸で雨や曇りとなった。黄海の高気圧が東へ移動し、西日本を中心に高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。18日と19日は、上空の寒気の影響で、北日本の一部で雪が降り、東日本の日本海側で雪や雨が降った。北陸の一部では雷を伴った日があった。西日本を中心に、高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。20日は、華北の低気圧が前線を伴って日本海中部へ進んだ。西日本や東海地方の一部と北陸で雨が降った。サハリン付近の低気圧が東へ進んでサハリンから沿海州へのびる前線と一体となり、前線が北海道を通過した。北海道で雪や雨が降り、東北地方で雨が降った。南西諸島と関東は概ね晴れた。21日は、日本海中部の低気圧が前線を伴って三陸沖へ進んで消滅し、日本付近は冬型となった。北海道で雪が降り、東日本の日本海側と東北地方で雪や雨が降った。南西諸島と西日本で雨が降り、関東で雨や曇りとなった。

冬型の気圧配置となった後低気圧が次々と通過（22日～25日）

22日は、日本付近は引き続き冬型となった。北陸と北日本の日本海側で雪が降り、山陰と近畿北部で雪や雨が降った。湿った空気の影響で、南西諸島で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。23日は、上空の気圧の谷の影響で、北日本の日本海側で雪が降り、西日本の日本海側と東日本の日本海側で雪や雨が降った。その他の地方は曇りや晴れとなった。24日は、上空の気圧の谷の影響で、北陸と東北地方で雪や雨が降り、北海道で雪や曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島は曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。25日は、台湾から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の九州の南海上に低気圧が発生して東へ進んだ。西日本で雪や雨が降り、南西諸島と東海地方の一部で雨が降った。沿海州に低気圧が発生してオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。東日本の日本海側と北日本で雪や雨が降った。北日本の一部では雷を伴った。関東は曇りや晴れとなった。

高気圧に覆われた後、前線や低気圧が次々と通過（26日～31日）

26日は、日本付近は冬型となり、北日本で雪が降り、北陸で雪や雨が降った。山陰と近畿北部では雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。27日は、上空の気圧の谷の影響で、北陸の一部や東北地方の日本海側と北海道で雪や雨が降った。華中から九州にかけて前線が停滞し、九州北部と中国地方の一部で雨が降った。本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。28日は、東シナ海から西日本を通り東海地方の南海上へのびる前線上の近畿に低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。南西諸島や西日本と東海地方で雨が降り、関東で雨や曇りとなった。サハリンの西海上の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過したため、東日本の日本海側と北日本で雪や雨が降った。29日は、関東の東海上の低気圧が北東へ進み、日本付近は冬型となった。北海道の日本海側で雪が降り、東日本の日本海側と東北地方で雪や雨が降った。北陸の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。30日は、上空の気圧の谷の影響で、北海道の日本海側で雪が降り、東北地方で雪や雨が降り、北陸で雨が降った。華南から九州の西海上にかけて前線が停滞した。九州北部で雨が降り、南西諸島と中国地方で雨や曇りとなった。本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。31日は、華南から九州の西海上へのびる前線上の九州の西海上に低気圧が発生して東海地方の南海上へ進んだ。南西諸島や西日本、東海地方の一部と

伊豆諸島で雨が降った。沿海州の低気圧がオホーツク海へ進み、日本海中部に低気圧が発生し、前線を伴って日高沖へ進んだ。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降り、北陸で雨が降った。関東甲信地方は概ね晴れた。

2月

本州南岸を低気圧が通過し、東日本の太平洋側や北日本で雪（1日）

1日は、本州南岸の停滞前線を低気圧が次々と通過した。沖縄・奄美と西日本で雨が降り、東日本で雨や雪が降った。九州の一部では強風となった。北日本では冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となり、雪や曇りとなった。

上空の寒気の影響で、北陸や北日本を中心に雪（2日～6日）

2日から6日にかけて、北日本を中心に寒気が流れ込み、冬型となった。中国地方や近畿北部で雪や雨が降り、北陸と北日本で雪が降った。北陸の一部では雷を伴った日や、暴風や強風となった日があり、3日と4日には一部で大雪となった。北日本の一部では強風となった日があった。3日から6日にかけては、沖縄の南海上の停滞前線の影響で、沖縄・奄美は雨が降った。

西日本から東日本にかけて前線が停滞（7日～11日）

7日は、本州付近は高気圧に覆われ、冬型は次第に弱まったが、東日本の日本海側で雪や雨となり、北日本で雪が降り、一部では強風となった。沖縄の南海上の停滞前線の影響で、沖縄・奄美は雨が降った。8日は、華中から山陰沖にかけて停滞前線が発生して北陸までのびた。東日本の日本海側と東北南部で雪や雨が降った。上空の寒気の影響で、東北北部と北海道で雪が降った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、九州で雨や曇りとなった。9日から10日にかけては、華中から北陸にのびた停滞前線が日本の東海上へのび、前線を低気圧が次々と通過した。西日本と東日本で雨が降り、九州の一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。北海道の一部では強風となった日があった。沖縄・奄美では湿った空気の影響で雨が降った。11日は、華中から日本の東海上へのびる前線上の東シナ海の低気圧が本州南岸へ進み、前線が沖縄・奄美を通過した。沖縄・奄美や西日本と東日本の太平洋側で雨が降った。九州の一部では暴風や強風となり、一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、東日本の日本海側で雪や雨となり、北日本で雪が降った。

冬型の気圧配置となった後高気圧に覆われる（12日～14日）

12日は、関東の東海上の低気圧が東へ進み、日本付近は冬型となった。中国地方や近畿と東日本で雨や雪が降り、北日本で雪が降った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。13日は、引き続き冬型となり、西日本の日本海側と東日本の太平洋側で雪や雨が降り、東日本の日本海側と北日本の日本海側で雪が降った。14日は、上空の寒気の影響で、北日本の日本海側で雪が降った。華南から沖縄の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の東シナ海で低気圧が発生したため、沖縄・奄美と西日本で雨が降った。本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

本州南岸を低気圧が通過した後冬型の気圧配置となる（15日～19日）

15日は、低気圧が本州南岸を通過して関東の東海上へ進み、伴う前線が沖縄の南海上を通過して華南までのびた。沖縄・奄美と西日本で雨が降り、東日本で雪や雨が降った。上空の寒気の影響で、北日本で雪が降った。16日から17日にかけて、関東の東海上の低気圧が東へ進み、日本付近は冬型となった。東日本と北日本の日本海側で雪が降り、西日本の日本海側と東日本の太平洋側で雪や雨が降った。西日本の太平洋側は曇りとなった。18日は、本州南岸

を低気圧が通過し、東日本の太平洋側は雪が降った。その後 19 日にかけて日本付近は冬型となり、西日本と東日本の日本海側と北日本で雪が降った。19 日に北陸では雷を伴った。16 日から 19 日にかけては、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。

高気圧に覆われる(20 日～24 日)

20 日から 21 日にかけては、上空の寒気の影響で、東日本の日本海側と北日本で雪が降った。本州付近が高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。22 日から 23 日にかけては、日本海中部で低気圧が発生し、前線を伴ってサハリンの東海上へ進んだ。東北地方で雪や雨が降り、北海道で雪が降った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美と西日本の太平洋側で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。24 日は、日本付近が高気圧に覆われたためほぼ全国的に晴れたが、停滞前線の影響で北海道の一部で雪や曇りとなった。

本州南岸を低気圧が通過し、西日本で大雨(25 日～28 日)

25 日は、沿海州の低気圧が前線を伴ってサハリンの東海上へ進み、北海道で雪や曇りとなった。華中の低気圧が前線を伴って九州の西海上へ進んだため、西日本で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。26 日は、サハリンの低気圧からのびる前線が北日本を通過し、九州の西海上の低気圧が前線を伴って四国へ進んだ。沖縄・奄美から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部と東海地方の一部では大雨となった。北海道では雪や雨が降った。27 日は、四国の低気圧が三陸沖へ進み、伴う前線上の四国沖に別の低気圧が発生した。沖縄・奄美から東日本にかけてと東北南部で雨が降った。東海地方の一部では大雨となり、関東の一部では暴風となった。28 日は、三陸沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、四国沖の低気圧が関東の東海上へ進んだ。西日本で雨が降り、東日本で雪や雨が降った。サハリンの西海上に低気圧が発生し、前線を伴ってサハリンの東海上へ進んだため、東北地方で雪や曇りとなり、北海道で雪が降った。

3 月

前線や低気圧が通過した後高気圧に覆われる(1 日～3 日)

1 日は、黄海の低気圧が四国へ進み、伴う前線が華中から三陸沖にかけてのびた。沖縄・奄美の一部や西日本と東日本で雨が降り、西日本の一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、東北地方と北海道の一部で雪が降った。2 日は、本州南岸に前線が停滞し、前線上を複数の低気圧が通過した。沖縄・奄美と東日本で雨が降り、沖縄の一部では大雨となった。西日本では雨や曇りとなった。上空の寒気の影響で、東北地方と北海道の一部で雪が降った。3 日は、前線の影響で、はじめ四国から関東甲信にかけて雨や曇りとなったが、日本海中部の高気圧が本州付近を覆ったため、その後晴れた。上空の寒気の影響で、東北地方と北海道の一部で雪が降った。弱い気圧の谷の影響で、九州は雨が降った。沖縄・奄美は概ね晴れた。

本州南岸に前線が停滞し、低気圧が次々と通過(4 日～8 日)

4 日から 6 日にかけては、本州南岸に前線が停滞し、前線上を低気圧が次々と通過した。関東甲信と北日本で雪や雨が降り、沖縄・奄美から北陸にかけては雨が降った。東海地方の一部では大雨となった日があり、九州の一部では強風となった日や雷を伴った日があった。7 日は、引き続き本州南岸に前線が停滞したため、東日本で雪や雨が降り、沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降った。伊豆諸島の一部では大雨や強風となり、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)の影響で、北日本は雪や曇りとなった。8 日は、沖縄の南海上に前線が停滞し、九州の南海上に低気圧が発生したため、沖縄・奄美と九州で雨が降った。上空の寒気の影響で、東日本の日本海側と北日本の一部で雪や雨が降った。湿った空気の影響で、四国や中国地方、近畿と東日本の太平洋側で雨や曇りとなり、伊豆諸島の一部では強風となった。

低気圧が太平洋側を通過し、全国的に雪（9日～11日）

9日は、九州の南海上の低気圧が前線を伴って東海地方の南海上へ進んだ。北陸や東北地方と北海道の一部で雪が降り、西日本と関東甲信で雪や雨が降り、沖縄・奄美と東海地方で雨が降った。近畿の一部や東日本の一部では大雨となり、西日本の一部や関東の一部では強風となった。10日は、東海地方の南海上の低気圧が北海道へ進み、日本付近は冬型となった。東北地方と北海道の一部で雪が降り、西日本から東日本にかけて雪や雨が降り、沖縄・奄美の一部で雨が降った。西日本の一部では暴風や強風となり、沖縄・奄美の一部や東日本の一部と北海道の一部で強風となった。西日本の一部では雷を伴った。11日は、日本付近は引き続き冬型となり、西日本から東日本にかけての日本海側や東北地方と北海道の一部で雪が降った。東シナ海の高気圧が九州の南海上へ移動したため、その他の地方は概ね晴れた。

低気圧の影響で、北日本を中心に雪や雨（12日～14日）

12日は、中国東北区の低気圧が前線を伴って沿海州へ進み、西日本の一部と北海道で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。13日は、沿海州の低気圧がサハリンの西海上へ進み、伴う寒冷前線が西日本から北日本にかけて通過した。北陸と北日本で雪や雨が降り、西日本や東海地方と関東甲信地方で雨や曇りとなった。北海道の一部では暴風や強風となり、東日本の一部と東北地方の一部では強風となった。沖縄・奄美は概ね晴れた。14日は、はじめ上空の寒気の影響で、北日本の一部で雪が降ったが、その後高気圧に覆われたため、西日本から北日本にかけて概ね晴れた。湿った空気の影響で、沖縄・奄美は雨や曇りとなり、先島諸島の一部では大雨となった。

本州南岸と日本海を前線や低気圧が通過（15日～17日）

15日から16日にかけては、黄海の低気圧が前線を伴って日本海中部を進んでサハリンの東海上に達し、東シナ海から本州南岸へ進んだ前線と一体となった。北日本で雪や雨が降り、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。西日本の一部と東海地方の一部では大雨となった日があり、西日本から北日本にかけての一部では強風となった。17日は、冬型となったため、北陸と北日本で雪や雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

本州付近を低気圧が次々と通過（18日～19日）

18日は、本州付近を低気圧が次々と通過したため、西日本から東日本にかけて雨が降った。上空の寒気の影響で、北日本で雪や雨が降った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で曇りとなった。19日は、はじめ上空の寒気の影響で北日本は雪や雨が降り、関東の東海上の低気圧の影響で東日本は雨が降ったが、その後高気圧に覆われ、ほぼ全国的に晴れた。

低気圧が日本海を通過し、西日本から北日本にかけて大荒れ（20日～22日）

20日は、黄海の低気圧が日本海中部へ進み、伴う前線が西日本と北日本を通過したため、西日本で雨が降り、北海道で雪や雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。西日本の一部と東北地方の一部では雷を伴い、西日本の一部では暴風や強風となった。その他の地方は概ね晴れたが、東日本の一部では暴風や強風となった。21日は、日本海中部の低気圧が発達しながらサハリンの東海上へ進み、伴う前線が本州を通過した。四国や中国地方と近畿で雨が降り、東日本と北日本で雪や雨となった。西日本から北日本にかけての一部では雷を伴い、一部では暴風や強風となった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。22日は、上空の寒気の影響で、東日本の一部や北日本の一部で雪や雨が降り、北海道の一部では強風となった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

本州南岸に前線が停滞し、全国的に雨（23日～25日）

23日は、本州南岸に前線が停滞し、前線上の九州の西海上に低気圧が発生して四国沖へ進んだ。西日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。九州の一部では雷を伴った。日本海

中部の低気圧が東北地方へ進んだため、北日本で雨や曇りとなり、雪が降ったところもあった。沖縄・奄美は概ね晴れた。24日は、引き続き本州南岸に前線が停滞したため、西日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。高気圧に覆われたため、北日本は曇りや晴れとなった。25日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の四国沖の低気圧が三陸沖へ進んだ。沖縄・奄美と西日本で雨が降り、東日本と北日本で雪や雨が降った。

上空の寒気の影響で雨（26日～31日）

26日は、上空の寒気の影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降った。沖縄・奄美は概ね晴れた。27日は、北海道の西海上に寒気を伴った低気圧が発生し、北海道を通過したため、北陸と北日本で雪や雨が降り、北日本の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。28日は、上空の寒気の影響で、西日本で雨が降り、東日本の一部と北日本の一部で雪や雨が降った。西日本の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で雨や曇りとなった。29日は、上空の寒気の影響で、中国地方や近畿、東日本と北日本で雪や雨が降った。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。30日は、上空の寒気の影響で、はじめ東日本の日本海側の一部と北日本の日本海側の一部で雪が降ったが、その後高気圧に覆われ、西日本から北日本にかけて晴れた。湿った空気の影響で、沖縄・奄美は曇りとなった。31日は、華中から山陰沖にかけて前線が停滞した。西日本で雨が降り、東日本と北日本で雨や曇りとなった。沖縄・奄美は曇りとなった。

4月

前線や低気圧が通過した後高気圧に覆われる（1日～4日）

1日は、華中から山陰沖に停滞した前線が三陸沖までのび、前線上の華中の低気圧が九州へ進んだ。西日本と東北地方で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。西日本の一部では大雨や強風となった。中国東北区の低気圧が前線を伴ってサハリンへ進んだため、北海道で雨が降った。沖縄・奄美は概ね晴れた。2日は、サハリンの低気圧が東へ進み、この低気圧からのびる前線が華中から三陸沖にのびる前線と一体となった。前線上の九州の低気圧は関東へ進んで消滅した。北日本で雪や雨が降り、沖縄・奄美から東日本で雨が降った。東日本の一部では大雨となり、西日本から北日本の一部では強風となった。3日と4日は、上空の寒気の影響で、北海道で雪が降り、中国地方から東日本の日本海側と東北地方で雨が降った日があった。湿った空気や沖縄本島付近の前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部では大雨となった日があった。本州付近は高気圧に覆われたため、九州南部と関東で曇りとなった日があった他は概ね晴れた。

低気圧や前線が日本の南海上を次々と通過（5日～12日）

5日は、沖縄本島付近の低気圧が前線を伴って関東の東海上へ進んだ。沖縄・奄美と関東で雨が降り、九州や東海地方と東北地方で雨や曇りとなった。その他の地方では概ね曇った。6日は、日本海の低気圧が前線を伴って津軽海峡へ進んだため、北海道で雪や雨が降り、北陸と東北地方で雨が降った。華南から東シナ海に前線が発生して九州の南海上までのび、前線上の沖縄本島付近で低気圧が発生したため、沖縄・奄美と九州南部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。7日は、津軽海峡の低気圧が北海道の東海上へ進み、伴う前線が北日本を通過した。北海道で雪や雨が降り、東日本と東北地方で雨が降り、中国地方から近畿で雨や曇りとなった。東日本の一部では強風となった。沖縄の南海上に前線が停滞したため、沖縄・奄美と九州で雨や曇りとなった。8日は、引き続き沖縄の南海上に前線が停滞し、沖縄・奄美で雨が降った他は、高気圧に覆われて概ね晴れた。9日は、沖縄の南海上の停滞前線上に低気圧が発生し、日本の南海上へ進んだ。沖縄・奄美で雨が降り、西日本で雨や曇りとなり、関東で曇りとなった。四国の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れた。10日は、湿った空気の影響で、西日本と関東で雨や曇りとなった。沿海州で低気圧が発生し、前線を伴って宗谷海峡へ進んだため、北海道と東北地方の一部で雨が降った。その他の地方

は概ね晴れた。11日は、宗谷海峡の低気圧がサハリンの東海上へ進み、伴う前線が北日本を通過した。東日本と北日本で雨が降り、北海道の一部では強風となった。湿った空気の影響で、西日本で雨が降った。沖縄・奄美は概ね晴れた。12日は、東シナ海の低気圧が前線を伴って東海道沖へ進んだ。西日本から東日本で雨が降り、沖縄・奄美と東北地方で雨や曇りとなった。西日本の一部と東海地方の一部では大雨や強風となった。北海道は概ね晴れた。

寒気の影響で、西日本から北日本で雪(13日~17日)

13日は、日本海中部の低気圧が前線を伴ってサハリンの西海上へ進んだため、北海道で雪や雨が降り、東北地方で雨が降った。北日本の一部では暴風や強風となった。東海道沖の低気圧が三陸沖へ進んで消滅し、前線が三陸沖から華南までのびた。東日本で雨が降り、沖縄・奄美と西日本で雨や曇りとなった。西日本の一部と東日本の一部では強風となった。14日は、サハリンの西海上の低気圧がオホーツク海へ進み、北日本を中心に冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降り、西日本の一部と東日本の一部で雨が降った。北日本の一部では暴風や強風となり、東日本の一部では強風となった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美は雨や曇りとなった。15日は、寒気の影響で、北日本の一部で雪が降り、北陸や甲信地方で雪や雨が降り、西日本の日本海側で雨が降った。北海道の一部では暴風や強風となった。関東の東海上の低気圧が東へ進み、関東で雨が降った。台湾から九州の南海上に前線が停滞し、前線上の九州の南海上に低気圧が発生して日本の南海上へ進んだ。沖縄・奄美と西日本の太平洋側で雨が降り、東海地方で雨や曇りとなった。沖縄・奄美の一部では雷を伴った。16日と17日は、日本の南海上の低気圧が三陸沖へ進んだ。上空の寒気の影響で、北日本の一部と東日本で雪や雨が降り、沖縄・奄美と西日本で雨や曇りとなった日があった。関東の一部では強風となった。

高気圧に覆われた後低気圧や前線が本州南岸を通過(18日~23日)

18日は、上空の寒気の影響で、北日本で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で沖縄・奄美の一部で雨や曇りとなった。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。19日は、華中から九州南部に前線がのび、前線上の九州の西海上に低気圧が発生した。西日本と沖縄・奄美で雨が降った。上空の寒気の影響で、北日本の一部で雨や曇りとなった。東日本は概ね晴れた。20日は、前線が華中から関東の東海上にのび、前線上の九州の西海上の低気圧が東海道沖へ進んだ。沖縄・奄美の一部や西日本と東日本で雨が降り、九州南部の一部では大雨となった。日本海中部や三陸沖に発生した低気圧の影響で、北海道で雪や雨が降り、東北地方は曇りとなった。21日は、本州南岸に前線が停滞したため、西日本と東日本の一部で雨が降った。弱い気圧の谷の影響で、北海道で雪や雨が降り、東北地方の一部で雨が降った。沖縄・奄美は概ね晴れた。22日は、華南から日本の東へかけてのびる前線上の低気圧が東シナ海から本州南岸を通過して関東の東海上まで進んだ。西日本から東北地方で雨が降った。西日本の一部では大雨や強風となり、九州の一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、北海道の一部で雪や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。23日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の関東の東海上の低気圧が北東へ離れた。上空の寒気の影響で、ほぼ全国的に雨や曇りとなった。

高気圧に覆われる(24日~26日)

24日と25日は、高気圧に覆われたため概ね晴れたが、上空の寒気の影響で、西日本から北日本の一部で雪や雨が降った。26日は、華中から東シナ海に停滞する前線上の東シナ海に低気圧が発生して東へ進んだため、九州で雨が降り、沖縄・奄美の一部で雨や曇りとなった。その他の地方は、引き続き高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や低気圧が日本付近を通過(27日~30日)

27日は、東シナ海の低気圧が近畿へ進んだため、沖縄・奄美から東北南部で雨が降り、西日本の一部と東日本の一部では大雨や強風となった。東北北部と北海道は概ね晴れたが、北海道の一部では強風となった。28日は、近畿の低気圧が関東の東海上へ進んだため、東日本と東北地方で雨が降り、北海道で雨や曇りとなった。東日本の一部と北日本の一部では大雨や強風となった。華北の低気圧が前線を伴って朝鮮半島へ進んだため、沖縄・奄美と西日本は雨や曇りとなり、九州の一部では雷を伴った。29日は、朝鮮半島の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。四国から北日本で雨が降り、北海道の一部では大雨となった。西日本の一部と東日本の一部では雷を伴い、西日本の一部と北日本の一部では強風となった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美は雨や曇りとなった。九州は概ね晴れた。30日は、日本海北部の低気圧がサハリンへ進み、北日本と北陸で雨が降った。北日本の一部では強風となり、北陸の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で沖縄・奄美で曇った他は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

5月

高気圧に覆われる(1日~5日)

1日は、サハリンの低気圧が東へ進み、北海道で雨が降った。大気の状態が不安定となり、東北地方の一部と北陸の一部で雨が降り、北陸の一部では雷を伴った。北日本の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。2日から5日にかけては、沖縄の南海上に前線が停滞したため、沖縄・奄美の一部で雨や曇りとなった。北日本の一部では強風となった日があった。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過、沖縄・奄美は梅雨前線の影響で大雨(6日~10日)

6日は、朝鮮半島の低気圧が前線を伴って日本海中部へ進んだ。西日本や北海道と東北北部の一部で雨が降り、北海道の一部では強風となった。華中で発生した前線が沖縄本島までのびたため、沖縄・奄美で雨や曇りとなり、一部では大雨や雷となった。7日は、日本海中部の低気圧が宗谷海峡へ進み、伴う前線が西日本から北日本にかけて通過した。西日本から北日本にかけて雨が降り、北海道の一部では強風となった。華南から日本の南海上に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部では大雨や雷となった。8日は、宗谷海峡の低気圧がオホーツク海へ進んだ。北海道で雨が降り、東北地方の一部で曇りとなった。沖縄本島に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。9日は、沖縄本島に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨や曇りとなり、九州は曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、北日本の一部で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。10日は、九州西海上の低気圧が四国沖へ進んだ。西日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。沖縄本島に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨が降った。弱い気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨や曇りとなった。東北地方は概ね晴れた。

寒気の影響で、雨や曇り(11日~13日)

11日は、日本の南海上の低気圧が前線を伴って関東の東海上へ進み、日本海中部に上空に寒気を伴う低気圧が発生して秋田沖へ進んだ。西日本や東日本と東北地方で雨が降り、沖縄・奄美と北海道で雨や曇りとなった。東日本の一部では強風となった。12日は、秋田沖の低気圧が三陸沖へ進んだ。西日本の一部や東日本と北日本で雨が降り、東日本の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。13日は、上空の気圧の谷の影響で、東日本の日本海側と北日本で雨が降り、近畿北部で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

梅雨前線の影響で、沖縄・奄美で大雨(14日~17日)

14日は、沖縄の南海上に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨や曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、東日本と北日本で雨や曇りとなった。西日本は概ね晴れた。15日と16日は、沖縄の南の停滞前線が衰弱した後、東シナ海に低気圧が発生してほとんど停滞した。沖

縄・奄美で雨が降り、沖縄の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れた。17日は、東シナ海の低気圧の影響で沖縄・奄美で雨が降った他は概ね晴れた。

梅雨前線の影響で、西日本を中心に大雨(18日~21日)

18日は、東シナ海に前線が停滞したため、西日本で雨が降り、沖縄・奄美で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。19日は、東シナ海に停滞した前線が本州南岸までのびた。沖縄・奄美の一部と西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部と東海地方の一部では大雨となった。九州の一部では雷を伴った。北海道の一部では曇りとなった。20日は、引き続き華中から本州南岸にかけて前線が停滞した。西日本から東北地方にかけて雨が降った。九州南部の一部では大雨となり、関東の一部では雷を伴った。上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨が降り、一部では大雨となった。21日は、日本の南海上に停滞する前線の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。関東の東海上の低気圧の影響で、関東の一部で雨が降った。上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が日本付近を通過し、各地で大雨(22日~26日)

22日は、華中の低気圧が黄海へ進み、伴う前線が九州南部を通過した。九州や中国地方と四国で雨が降り、九州の一部では大雨となった。北陸の一部では曇りとなった。弱い気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨や曇りとなった。23日は、黄海の低気圧が前線から離れて朝鮮半島へ進み、華南から西日本にかけてのびた前線上の対馬海峡に低気圧が発生した。西日本と東日本で雨が降り、沖縄・奄美や東北地方と北海道の一部で雨や曇りとなった。西日本の一部と東日本の一部では大雨や強風となった。24日は、朝鮮半島の低気圧が東シナ海から西日本にかけてのびる前線と一体となって日本海西部へ進み、前線が沖縄・奄美から東日本にかけて通過した。沖縄・奄美から東北地方にかけてと北海道の一部で雨が降り、西日本から東北地方にかけての一部では大雨となった。25日は、日本海西部の低気圧が前線から離れてほとんど停滞し、前線上の三陸沖で発生した低気圧が釧路沖へ進んだ。東日本と北日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。北海道の一部では大雨となり、東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴った。沖縄・奄美は概ね晴れた。26日は、本州付近の低気圧と沖縄の南海上から関東の東海上にかけて停滞した前線上に発生した低気圧が一体となって三陸沖へ進んだ。東日本と北日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。東日本の一部では雷を伴った。沖縄・奄美は概ね晴れた。27日は、三陸沖の低気圧は前線から離れて釧路沖へ進んだ。東日本と北日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。沖縄・奄美は概ね晴れた。

寒気の影響で、雨や曇り(28日~31日)

28日は、上空の気圧の谷の影響で、東日本の日本海側と北日本で雨や曇りとなり、西日本の一部で曇りとなった。沖縄の南海上に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。29日は、華南から沖縄の南海上にかけて停滞した前線上の東シナ海に低気圧が発生して沖縄本島へ進んだ。沖縄・奄美で雨が降り、一部では大雨となった。九州南部は曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、関東と東北地方で雨や曇りとなり、北陸で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。30日と31日は、上空の気圧の谷の影響で、西日本の一部と東日本の一部で雨や曇りとなった。沖縄の南に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美では雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

6月

寒気の影響で大気の状態が不安定(1日~5日)

1日から3日にかけては、大気の状態が不安定となり、沖縄・奄美から東日本にかけての一部で雨が降り、北海道で雨や曇りとなった。西日本の一部では雷を伴い、一部では大雨となった日があった。東日本の一部では雷を伴った日があった。東北地方は概ね晴れた。4日は、引き続き大気の状態が不安定となり、関東甲信や東北地方の一部と北海道で雨が降った。

東日本の一部では雷を伴った。沖縄の南海上に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨が降った。湿った空気の影響で、九州で曇りとなった。5日は、引き続き大気の状態が不安定となり、北陸の一部や関東甲信と東北地方で雨が降り、北海道の一部で曇りとなった。東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴った。沖縄本島に前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

本州南岸を前線や低気圧が通過（6日～14日）

6日は、先島諸島から日本の南海上にかけて前線が停滞したため、沖縄・奄美と小笠原諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。7日は、先島諸島から日本の南海上にかけて停滞した前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生して北東へ進んだため、沖縄・奄美で雨が降った。大気の状態が不安定となり、西日本で雨が降り、東海地方と伊豆諸島で曇りとなった。中国地方の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。8日は、沖縄の南海上に停滞する前線の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。大気の状態が不安定となり、西日本で雨が降り、東日本は雨や曇りとなり、東北地方は曇りとなった。北海道は概ね晴れた。9日は、日本の南海上の低気圧が前線を伴って北東へ進んだため、伊豆諸島と小笠原諸島で雨が降った。大気の状態が不安定となり、東日本で雨が降り、北海道で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部と九州南部の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。10日は、華南から南西諸島にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。大気の状態が不安定となり、関東甲信の一部と北日本の一部で雨や曇りとなり、北日本の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。11日は、華南から日本の南海上にかけて前線が停滞し、東シナ海に低気圧が発生して北東へ進んだ。沖縄・奄美で雨が降り、沖縄の一部では大雨や雷となった。関東の一部と北日本の太平洋側で曇った他は概ね晴れた。12日は、東シナ海の低気圧が沖縄本島付近にかかる前線と一体となって九州の西海上へ進んだ。沖縄・奄美と九州で雨が降り、九州南部地方の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れた。13日は、九州の西海上の低気圧が東へ進み、前線は低気圧から離れて沖縄の南海上から日本の南海上にかけてのびた。西日本や北陸と東海地方で雨が降り、関東甲信で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。14日は、九州の西海上の低気圧は消滅し、東海沖に別の低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。東日本で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。伊豆諸島では大雨となった。北海道の一部は曇りとなった。華中から九州の南海上にかけて前線が停滞したため、沖縄・奄美で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。沖縄の一部では雷を伴った。

梅雨前線が本州南岸に停滞、西日本と東日本で大雨（15日～23日）

15日は、華中から四国沖にかけて停滞した前線上の九州の南海上に低気圧が発生して四国沖に進んだ。また、関東の東海上の低気圧が三陸沖へ進んだ。沖縄・奄美から東北地方にかけてと北海道の一部で雨が降った。九州南部地方の一部では大雨が降り、沖縄では雷を伴ったところがあった。16日は、四国沖の低気圧が釧路沖へ進み、伴う前線が本州南岸から華中にかけてのびた。日本海中部に上空に寒気を伴った低気圧が発生した。九州で晴れた他はほぼ全国的に雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となった。西日本の一部と東日本の一部では雷を伴った。17日は、釧路沖の低気圧が千島近海へ進んだ。前線が本州の南岸から華中にかけて停滞し、前線上の東シナ海に別の低気圧が発生した。沖縄・奄美、九州や四国と北海道で雨が降り、九州南部地方の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れた。18日は、前線が西日本から東日本にかけて停滞し、前線上の東シナ海の低気圧は対馬海峡へ進んで消滅した。西日本と東日本で雨が降り、沖縄・奄美や東北地方と北海道の一部は雨や曇りとなった。西日本の一部と東日本の一部では大雨となり、西日本では強風となったところがあった。19日は、本州南岸に前線が停滞し、前線上の東海地方に低気圧が発生して三陸沖へ進んだ。西日本から東北地方にかけて雨が降り、九州南部の一部と東海地方の一部では大雨や雷となった。20日と21日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、西日本から北日本にかけて

雨が降り、沖縄・奄美の一部は雨や曇りとなった。九州では大雨となったところがあり、東海地方の一部では大雨となった日があった。西日本から北日本にかけては雷を伴ったところがあった。22日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の九州西海上に低気圧が発生した。西日本と東日本の太平洋側で雨が降り、九州の南部の一部と近畿の一部では大雨となった。沖縄・奄美の一部と西日本の一部では雷を伴った。日本海中部に上空に寒気を伴った低気圧が発生して北東へ進んだ。大気の状態が不安定となり、東日本と北日本で雨や曇りとなった。北陸の一部では雷を伴った。23日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の九州西海上の低気圧が三陸沖へ進んだ。日本海中部の低気圧は日本海北部へ進んだ。ほぼ全国的に雨が降り、東海地方の一部では大雨となった。近畿から北日本にかけての一部では雷を伴った。

梅雨前線が北上し、西日本や東日本で大雨（24日～30日）

24日は、三陸沖の低気圧が日本海北部の低気圧と一体となって千島近海へ進み、低気圧からのびる前線が本州南岸に停滞した。沖縄・奄美や北日本と伊豆諸島で雨が降り、九州の南部で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。25日は、本州南岸に前線が停滞し、沖縄・奄美と西日本で雨が降り、東海地方の一部と伊豆諸島の一部で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。26日は、西日本に前線が停滞し、黄海に低気圧が発生して北東へ進んだ。沖縄・奄美の一部や西日本から東日本にかけてと東北地方の一部で雨が降り、西日本の一部と東日本の一部では大雨となった。27日は、対馬海峡から東北地方にかけて前線が停滞し、日本海西部に低気圧が発生した。西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部と東日本の一部では大雨や雷となった。北海道の一部は曇りとなった。沖縄・奄美は概ね晴れた。28日は、対馬海峡から山陰沖にかけて前線が停滞し、日本海中部の低気圧が東へ進んだ。沖縄・奄美の一部と西日本から東北地方にかけて雨が降り、九州の北部では大雨となったところがあった。西日本の一部と東日本の一部では雷を伴った。29日は、西日本に前線が停滞した。西日本で雨が降り、一部では雷を伴った。九州の一部では大雨となった。大気の状態が不安定となり、東日本や東北地方と北海道の一部で雨が降り、関東では大雨や雷となったところがあった。30日は、引き続き西日本に前線が停滞し、沖縄・奄美の一部と九州で雨が降り、四国や中国地方と近畿で雨や曇りとなった。九州の一部では雷を伴った。大気の状態が不安定となり、東日本と東北地方で雨が降り、北海道で雨や曇りとなった。

7月

低気圧や前線が本州付近を通過、西日本や東日本で大雨（1日～5日）

1日は、九州の南海上に前線が停滞し、沖縄・奄美で雨が降り、九州の一部と四国の一部で雨や曇りとなった。沖縄の一部や九州南部の一部では大雨となり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。大気の状態が不安定となり、中国地方の一部や近畿の一部、東日本と北日本で雨が降り、雷を伴ったところがあった。2日は、華北から朝鮮半島にかけて停滞した前線が西日本までのび、前線上の黄海に低気圧が発生して東へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、九州南部の一部では大雨となった。沖縄・奄美と東日本では雷を伴ったところがあった。大気の状態が不安定となり、北日本で雨や曇りとなり、東北地方の一部では雷を伴った。3日は、華北から東日本にかけて前線が停滞し、前線上の低気圧が黄海から山陰沖へ進んだ。西日本と東日本で雨が降り、一部では大雨となった。西日本では雷を伴ったところがあった。大気の状態が不安定となり、北日本で雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。4日は、西日本から東日本にかけて前線が停滞し、前線上の低気圧が山陰沖から三陸沖へ進んだため、西日本から東日本にかけて雨が降り、九州北部の一部では雷を伴った。大気の状態が不安定となり、北日本で雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。5日は、三陸沖の低気圧が千島近海へ進み、本州南岸に前線が停滞した。ほぼ全国的に雨や曇りとなり、九州南部の一部と伊豆諸島の一部では大雨となった。

前線が本州付近に停滞、全国各地で大雨（6日～16日）

6日と7日は、本州南岸に前線が停滞し、前線上の東海道沖に低気圧が発生した。上空に寒気を伴った低気圧が日本海中部を東へ進んだ。東日本で雨が降り、沖縄・奄美や西日本と北日本で雨や曇りとなった。九州南部の一部と中国地方の一部では大雨となった日があり、沖縄・奄美から東北地方にかけての一部では雷を伴った日があった。8日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の低気圧が東海道沖から三陸沖へ進み、別の低気圧が四国沖に発生して東海道沖へ進んだ。沖縄・奄美と東日本の一部で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。伊豆諸島の一部では大雨となった。大気の状態が不安定となり、東北地方の一部と北海道で雨が降り、北日本の一部では雷を伴った。9日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の東海道沖の低気圧は消滅したが、前線上の東シナ海に別の低気圧が発生して関東へ進んだ。沖縄・奄美から東北地方にかけて雨が降り、北海道で雨や曇りとなった。西日本の一部と東日本の一部では大雨や雷となり、東北地方の一部では雷を伴った。西日本の一部では強風となった。10日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の低気圧が関東の東海上から釧路沖へ進んで前線から離れ、別の低気圧が前線上の黄海に発生した。東日本の一部と北日本で雨が降り、沖縄・奄美と西日本で雨や曇りとなった。北海道の一部では大雨となった。11日は、前線が北上して本州付近に停滞し、前線上の低気圧が黄海から日本海中部へ進み、前線上の別の低気圧が華北から朝鮮半島へ進んで消滅した。西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部と東日本の一部では大雨となった。西日本では強風となったところがあった。釧路沖から千島近海へ進んだ低気圧の影響で、北海道で雨や曇りとなった。沖縄・奄美は概ね晴れた。12日は、前線が本州付近に停滞し、日本海中部の低気圧が釧路沖へ進んだ。ほぼ全国的に雨が降り、西日本や東日本と北海道では大雨や雷となったところがあった。西日本の一部と関東の一部では強風となった。13日は、引き続き本州付近に前線が停滞し、前線上の対馬海峡に低気圧が発生して日本海西部へ進んだ。西日本と東日本で雨が降り、一部では大雨となった。西日本の一部では雷を伴った。東北地方と北海道の一部で雨や曇りとなった。14日と15日は、本州の日本海側に前線が停滞し、前線上の日本海西部の低気圧が秋田沖へ進んで消滅した。沖縄・奄美の一部と西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部と東日本の一部では大雨となった。西日本では雷を伴ったところがあり、東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴った日があった。16日は、本州の日本海側に停滞した前線が日本の東海上へ離れた。沖縄・奄美から東北地方にかけてと北海道の一部で雨が降り、西日本から東北地方にかけての一部では雷を伴った。

全国的に高気圧に覆われる（17日～22日）

17日は、高気圧に覆われたため、全国的に概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり、雨や雷となったところがあった。18日は、日本の南海上の低圧部が沖縄の南海上へ進んで熱帯低気圧に変わった。沖縄・奄美と西日本の太平洋側で雨が降った。大気の状態が不安定となり、北海道で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。19日は、沖縄の南海上の熱帯低気圧が東シナ海へ進み、沖縄・奄美と西日本の一部で雨が降った。沿海州の低気圧が網走沖へ進んだため、北海道で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。20日は、東シナ海の熱帯低気圧が北へ進んで消滅した。沖縄・奄美と九州南部の一部で雨が降った。網走沖の低気圧が千島近海へ進み、東北北部と北海道で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。21日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美と九州の一部で雨が降った。中国東北区の低気圧が沿海州へ進み、北海道で雨や曇りとなった。大気の状態が不安定となり、東海地方の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。22日は、沿海州の低気圧が網走沖へ進み、北海道で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨や曇りとなった。大気の状態が不安定となり、西日本の一部と東日本の一部で雨が降り、東日本では雷となったところがあった。東北地方は概ね晴れた。

大気の状態が不安定となり、全国各地で雷雨（23日～27日）

23日は、大気の状態が不安定となり、西日本の一部と東日本の一部では雨が降り、東日本では雷を伴ったところがあった。網走沖の低気圧が千島近海へ進み、東北北部と北海道で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、先島諸島の一部では大雨となった。24日と25日は、大気の状態が不安定となり、西日本の一部と東日本の一部で雨や雷となった。日本海中部に低気圧が発生し、日高沖を通過して北海道の東海上へ進んだため、北日本で雨が降り、一部では雷を伴った日があった。先島諸島に熱帯低気圧が発生し、北西へ進んで消滅した。沖縄・奄美で雨が降り、先島諸島の一部では大雨となった日があった。26日は、大気の状態が不安定となり、関東甲信と東南北部で雨が降った。北海道の東海上の低気圧が東へ離れ、東北北部と北海道で曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨や曇りとなり、先島諸島では大雨や強風となった。その他の地方は概ね晴れた。27日は、大気の状態が不安定となり、四国から東北地方にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。沿海州の低気圧がサハリン付近へ進んだため、北海道で雨が降った。東シナ海に熱帯低気圧が発生して黄海へ進んだため、沖縄・奄美で雨が降り、九州で曇りとなった。

湿った空気の影響で、全国的に雨（28日～31日）

28日は、黄海の熱帯低気圧が北東へ進んで温帯低気圧に変わった。沖縄・奄美と西日本で雨が降り、九州の一部と四国の一部では大雨となった。大気の状態が不安定となり、東日本の一部と東北地方の一部で雨や雷となった。上空に寒気を伴った低気圧が沿海州から宗谷海峡へ進んだため、北海道で雨が降った。29日と30日は、湿った空気の影響で、ほぼ全国的に雨が降り、一部では大雨となった日があった。東日本の一部と北日本の一部では雷を伴った日があった。31日は、中国東北区の低気圧が前線を伴って日本海北部へ進んだため、北日本で雨や曇りとなった。大気の状態が不安定となり、沖縄・奄美から東日本にかけて雨や曇りとなった。

8月

北日本に前線が停滞、本州付近は高気圧に覆われる（1日～7日）

1日は、サハリンの西海上の低気圧が沿海州の低気圧と一体となってオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。北海道で雨が降り、東日本の一部と東北地方で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、九州の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。2日は、東北地方に前線が停滞し、東日本と東北地方で雨が降り、東日本の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部と九州で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。3日は、東北北部に前線が停滞し、東日本で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。北海道の一部で曇りとなった。北陸では雷を伴ったところがあった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部と西日本の一部で雨が降り、西日本では雷を伴ったところがあった。4日は、引き続き東北北部に前線が停滞し、東北北部で雨や曇りとなり、北海道で曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本太平洋側と東海地方の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。5日と6日は、北海道の南海上に停滞した前線が北海道の東海上に離れた。北海道で曇りとなった日があった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州北部、西日本太平洋側と東日本の一部で雨が降り、東海地方の一部では大雨となった日があり、沖縄・奄美から東北地方にかけての一部で雷を伴った日があった。その他の地方は概ね晴れた。7日は、北海道に前線が停滞し、東北地方の一部と北海道で雨が降り、東北地方では雷を伴ったところがあった。湿った空気の影響で、西日本の一部で雨や雷となった。沖縄の南海上に熱帯低気圧が発生し、沖縄・奄美で雨が降った。東日本は概ね晴れたが、一部で雨が降った。

台風第4号が秋田市付近に上陸、全国的に大雨や強風（8日～13日）

8日は、先島諸島付近の熱帯低気圧が台風第4号となり、沖縄・奄美で雨が降った。湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、一部では雷を伴った。北海道に停滞した前線の影響で、北海道で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。9日は、

先島諸島付近の台風第4号が東シナ海へ進んだ。台風第4号の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。九州南部の一部と東日本の一部では大雨となり、西日本では雷を伴ったところがあった。沖縄の一部では強風となった。湿った空気の影響で、北日本では雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。10日は、東シナ海の台風第4号が九州西海上へ進み、沖縄・奄美と東日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。沖縄・奄美の一部では大雨や雷となり、西日本と東日本では雷を伴ったところがあった。華北からオホーツク海にかけて停滞した前線の影響で、北海道の一部で雨や曇りとなった。東北地方は概ね晴れた。11日は、九州西海上の台風第4号が日本海西部へ進み、黄海からオホーツク海にかけて停滞した前線上の宗谷海峡に低気圧が発生して東へ進んだ。ほぼ全国的に雨が降り、西日本の一部と北海道の一部では大雨となった。九州と東北地方では雷を伴ったところがあり、九州と四国では強風となったところがあった。12日は、日本海西部の台風第4号が秋田市付近に上陸した後三陸沖へ進み、北海道に前線が停滞した。九州から北海道にかけて雨が降り、近畿や東海地方と北海道では大雨となったところがあった。近畿の一部や北日本の一部では雷を伴った。沖縄・奄美は概ね晴れた。13日は、三陸沖の台風第4号が温帯低気圧に変わって東へ離れた。華北から日本海にかけて停滞した前線が日本の東海上までのび、前線上の日本海中部に低気圧が発生して東へ進んだため、ほぼ全国的に雨や曇りとなった。

北日本に前線が停滞し、北日本を中心に雨（14日～17日）

14日は、東北地方に前線が停滞し、前線上の日本海中部の低気圧が秋田沖へ進んだ。東日本や東北地方と北海道の一部で雨が降り、北日本では大雨となったところがあった。東日本の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美と西日本で雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。15日は、朝鮮半島の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が東北北部から北海道にかけて通過し、北日本で雨が降った。東日本で雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、西日本の一部で雨が降り、近畿の一部では雷を伴った。沖縄・奄美は概ね晴れた。16日は、北日本に前線が停滞し、北日本で雨が降り、北陸で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての一部で雨が降り、近畿と東日本では雷を伴ったところがあった。17日は、黄海から東北地方にかけて前線が停滞した後消滅した。東日本の一部と東北地方で雨が降り、東北地方の一部で大雨となった。東日本では雷を伴ったところがあった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美と九州で雨が降り、一部では雷を伴った。

高気圧に覆われる（18日～20日）

18日は、日本付近は高気圧に覆われて概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり、沖縄・奄美から東北地方にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。19日と20日は、引き続き日本付近は高気圧に覆われて全国的に概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり、一部で雨が降り、東日本の一部では大雨となった日があった。九州の一部と東海地方の一部では雷を伴った日があった。

北日本に前線が停滞（21日～27日）

21日と22日は、華北から沿海州にかけて前線が停滞し、前線上の沿海州で低気圧が発生した。北海道で雨が降った。その他の地方は概ね晴れたが、湿った空気の影響で、一部で雨が降り、西日本の一部では雷を伴った日があった。23日は、華北から北海道にかけて前線が停滞し、前線上の沿海州の低気圧が日本海北部へ進んだ。北海道で雨が降り、一部では大雨となった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。西日本と東日本は概ね晴れたが、一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。東北地方は概ね晴れた。24日は、日本海北部の低気圧が千島近海へ進み、伴う前線が北日本を通過して華北までのびた。東北北部と北海道で雨が降り、一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。25日と26日は、東北地方に前線が停滞し、

東北地方と北海道の一部で雨や曇りとなり、雷を伴ったところがあった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本の一部と東日本の一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。27日は、引き続き東北地方に前線が停滞し、北日本の一部で雨や曇りとなった。沖縄の南海上の熱帯低気圧が沖縄本島付近へ進み、沖縄・奄美で雨が降り、九州で雨や曇りとなった。奄美の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れたが、湿った空気の影響で、一部で雨が降り、近畿と東日本では雷を伴ったところがあった。

台風第7号や熱帯低気圧が発生（28日～31日）

28日は、沖縄本島付近の熱帯低気圧が黄海へ進み、沖縄・奄美と西日本太平洋側で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。29日は、先島諸島付近で熱帯低気圧が発生した。沖縄・奄美や九州と四国で雨が降り、沖縄の一部では大雨となった。西日本の一部では雷を伴った。その他の地方は、北海道で曇った他は概ね晴れた。30日は、日本の南海上に台風第7号が発生して北西へ進み、先島諸島付近に台風第8号が発生して北西へ進んだ。沖縄・奄美と西日本で雨や雷となり、沖縄・奄美の一部では大雨や暴風となった。中国東北区の低気圧が前線を伴ってサハリンへ進み、北海道で雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。その他の地方では概ね晴れたが、一部で雨や雷となった。31日は、サハリンの低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北海道から日本海を通過して黄海までのびた。東日本の日本海側と北日本で雨や雷となり、東北地方の一部では大雨となった。沖縄の南海上の台風第7号が沖縄本島付近へ進み、台風第8号は西へ進んで熱帯低気圧に変わった。沖縄・奄美と九州で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

9月

台風第7号が日本海を通過（1日～3日）

1日は、沖縄本島付近の台風第7号が黄海へ進み、沖縄・奄美と九州南部で雨が降った。大気の状態が不安定となり、北日本の一部で雨が降った。東北北部の一部では大雨となり、雷を伴ったところがあった。2日は、黄海の台風第7号が日本海中部へ進み、西日本の一部で雨が降った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。3日は、日本海中部の台風第7号が熱帯低気圧に変わり、北海道を通過して釧路沖へ進んだ。北陸や東北地方日本海側と北海道で雨が降った。沖縄の南海上の熱帯低気圧の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり、西日本の一部で雨が降り、九州では雷を伴ったところがあった。

台風第9号が福井県に上陸、東日本を中心に大荒れ（4日～9日）

4日は、沖縄の南海上で台風第9号が発生し、沖縄本島付近へ進んだ。沖縄・奄美と九州の一部で雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨や強風となった。九州では雷を伴ったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。5日は、沖縄本島付近の台風第9号が九州西海上へ進んだ。沖縄・奄美と九州で雨が降り、沖縄の一部では大雨となった。北海道に前線が停滞し、北海道で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり、一部で雨が降り、近畿の一部では雷を伴った。6日は、九州西海上の台風第9号が北へ進み、沖縄・奄美や九州と四国で雨が降り、中国地方と北陸で雨や曇りとなった。九州の一部では大雨となった。北海道に停滞した前線が南下し、東北地方の一部と北海道で雨が降り、東北地方の一部では大雨となった。北日本では雷を伴ったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。7日は、九州西海上の台風第9号が山陰沖へ進んだ。北海道に停滞した前線が南下し、前線上の日高沖に低気圧が発生して北海道の東海上へ進んだ。東海地方と関東を除いてほぼ全国的に雨が降った。西日本の一部と北陸の一部では大雨となり、雷を伴ったところがあった。北日本の一部では雷を伴った。東海地方と関東は概ね晴れた。8日は、台風第9号が福井県敦賀市付近に上陸した後、熱帯低気圧に変わって関東の東海上へ進み、千島近海の低気圧からのびる前線が東日本に停滞した。西日本と東日本で雨が降り、東北地方で雨や曇

りとなった。近畿の一部と東日本の一部では大雨となり、一部では雷を伴った。西日本では強風となったところがあった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。9日は、関東の東海上の熱帯低気圧が東へ進み、東日本で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

東北地方に前線が停滞し、大雨（10日～14日）

10日は、湿った空気の影響により先島諸島で雨が降った他は、高気圧に覆われて概ね晴れた。11日は、黄海から日本海にかけて停滞した前線が三陸沖までのび、前線上の日本海中部の低気圧が東北地方を通過した。北陸の一部と東北地方で雨が降り、北海道で曇りとなった。華南の熱帯低気圧が黄海へ進み、沖縄・奄美と九州で雨が降ったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。12日は、黄海の熱帯低気圧が消滅し、黄海から東北地方にかけて停滞した前線の朝鮮半島に低気圧が発生して日本海中部へ進んだ。九州や中国地方、北陸と東北地方で雨が降り、一部では大雨となり、雷を伴ったところがあった。13日は、日本海中部の低気圧が前線を伴って三陸沖へ進み、日本海中部に低気圧が発生した。沖縄・奄美から東北地方にかけて雨が降り、一部では雷を伴った。東北地方では大雨となったところがあった。14日は、三陸沖の低気圧からのびる前線が本州南岸に停滞し、中国地方から東北南部にかけて雨が降った。東日本の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

台風第11号の影響で、沖縄・奄美で大荒れ（15日～19日）

15日は、華中から九州西海上にかけて停滞した前線が東海道沖までのび、前線上の九州西海上に低気圧が発生して東へ進んだ。沖縄の南海上で台風第11号が発生した。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、近畿の一部と東海地方の一部では大雨となった。西日本では雷を伴ったところがあった。北日本は概ね晴れた。16日は、台風第11号が北へ進み、沖縄・奄美で雨が降った。本州南岸に前線が停滞し、前線上の九州西海上の低気圧は四国沖へ進んで消滅し、東海道沖に別の低気圧が発生して三陸沖へ進んだ。西日本の一部や東日本と北日本で雨が降り、東日本の一部では大雨が降った。西日本と北陸では雷を伴ったところがあった。17日は、沖縄の南海上の台風第11号が北へ進み、沖縄・奄美で雨が降った。三陸沖の低気圧が前線を伴って北海道の東海上へ進み、北陸と北日本で雨が降った。18日と19日は、沖縄の南海上の台風第11号が先島諸島付近へ進み、沖縄・奄美で雨が降り、先島諸島の一部では暴風となった。北日本に前線がかかり、前線上の日本海中部に低気圧が発生して三陸沖へ進んだ。東北北部と北海道で雨が降り、北海道の一部では大雨となった日があった。北陸は曇りとなった日があった。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後、本州付近に前線が停滞（20日～23日）

20日は、西日本を中心に高気圧に覆われたが、湿った空気の影響でほぼ全国的に雨や曇りとなり、九州の一部では雷を伴った。21日は、沿海州の低気圧が前線を伴ってオホーツク海へ進み、北日本で雨が降り、東北地方の一部では大雨となった。華北から日本海中部にかけて前線が停滞し、前線上の日本海中部に低気圧が発生したため、西日本から東日本にかけての日本海側で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。22日は、本州付近に前線が停滞した。西日本から東日本にかけての日本海側と東北地方で雨が降り、一部では雷を伴った。北海道は雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。23日は、本州付近に停滞した前線が南下し、沖縄・奄美の一部や西日本と東日本で雨が降り、一部では雷を伴った。九州と東日本では大雨となったところがあった。上空の寒気の影響で、北日本で雨や曇りとなり、一部では雷を伴った。

台風第12号が日本の南海上を北上（24日～26日）

24日は、千島の東の低気圧からのびる前線が本州南岸に停滞し、22日にマリアナ諸島の西で発生した台風第12号が小笠原諸島付近へ進んだ。近畿から東北南部にかけて雨や曇りとなった。小笠原諸島の一部では大雨や暴風となり、西日本と東日本では強風となったところがあった。上空の寒気の影響で、北海道の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。25日は、小笠原諸島付近の台風第12号が三陸沖へ進んで温帯低気圧に変わった。近畿や東日本と北日本で雨や曇りとなり、関東では暴風となったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。26日は、三陸沖の低気圧は北東へ離れ、北海道の一部で雨が降った。本州付近は高気圧に覆われたが、湿った空気の影響で、東日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。伊豆諸島の一部では大雨となった。

低気圧が日本海と本州南岸を通過、東日本を中心に大雨（27日～30日）

27日は、華南から九州の南海上に停滞した前線が東海道沖までのび、前線上の九州の西海上に低気圧が発生して九州へ進んだ。朝鮮半島から日本海北部にかけて別の前線が停滞し、前線上の沿海州に上空に寒気を伴った低気圧が発生した。西日本と東日本で雨が降り、東北地方と北海道の一部で雨や曇りとなった。四国と関東では大雨となったところがあった。沖縄・奄美は概ね晴れた。28日は、本州南岸に停滞した前線上の九州の低気圧が三陸沖へ進み、沿海州の低気圧が前線を伴って北東へ進んだ。西日本の一部や東日本と北日本で雨が降り、近畿や東日本と北海道では大雨となったところがあった。沖縄・奄美は概ね晴れた。29日は、三陸沖の低気圧が沿海州の低気圧と一体となり、伴う前線が本州南岸にのびた。北海道で雨が降り、西日本から東北地方にかけて曇りとなった。北海道では暴風となったところがあった。湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降った。30日は、本州南岸に前線が停滞し、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、東北南部で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

10月

低気圧が日本海を通過（1日～5日）

1日と2日は、本州南岸に停滞した前線が東へ離れた。また、華中に別の停滞前線が発生して対馬海峡までのび、前線上の黄海に低気圧が発生して北東へ進んだ。沖縄・奄美と西日本の一部で雨が降り、東日本の一部で雨が降った日があった。九州南部の一部では大雨となった日があり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。その他の地方は、高気圧に覆われたため概ね晴れた。3日は、黄海の低気圧が日本海中部へ進み、伴う前線が沖縄・奄美から東北地方にかけてのびた。沖縄・奄美や西日本と北海道で雨が降り、東日本と東北地方で雨や曇りとなった。四国の一部と近畿の一部では大雨となり、沖縄・奄美や西日本では雷を伴ったところがあった。4日は、日本海中部の低気圧が前線から離れて沿海州へ進み、前線上の北海道西海上に別の低気圧が発生して網走沖へ進んだ。沖縄・奄美や西日本の一部、東日本と北日本で雨が降った。先島諸島の一部と北海道の一部では大雨となり、沖縄と近畿では雷を伴ったところがあった。5日は、網走沖の前線を伴った低気圧は東へ離れ、沿海州の低気圧がオホーツク海へ進んだ。北海道で雨が降った。上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。沖縄・奄美は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後低気圧が本州南岸を通過（6日～11日）

6日と7日は、上空の寒気の影響で、西日本の日本海側から北日本にかけての一部で雨が降った日があった他は、高気圧に覆われて概ね晴れた。8日は、黄海に上空に寒気を伴った低気圧が発生し、沖縄本島付近に前線が停滞した。沖縄・奄美や西日本と東海地方の一部で雨が降り、大雨となったところがあった。東海地方の一部では強風となった。9日は、日本海西部に低気圧が発生して日本海中部へ進み、沖縄本島付近に停滞していた前線上に低気圧が発生して四国の南海上へ進んだ。沖縄・奄美から東北地方にかけてと北海道の一部で雨が降り、沖縄・奄美から東日本にかけては大雨となったところがあった。10日は、日本海中部

の低気圧が東北地方へ進み、四国の南海上の低気圧が前線を伴って釧路沖へ進んだ。西日本の一部や東日本と北日本で雨が降り、関東の一部では大雨となった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美は雨や曇りとなった。11日は、上空の気圧の谷の影響で、近畿日本海側や東日本の日本海側と北日本の一部で雨が降った。その他の地方は、高気圧に覆われたため概ね晴れた。

高気圧に覆われた後日本海を低気圧が通過（12日～15日）

12日は、沿海州の低気圧が前線を伴ってオホーツク海へ進んだ。東日本と北日本で雨や曇りとなり、北海道の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、九州で雨や曇りとなった。その他の地方は、高気圧に覆われたため概ね晴れた。13日は、オホーツク海の低気圧が東へ離れ、関東の東海上と三陸沖に低気圧が発生した。東日本と北日本で雨や曇りとなった。九州の南海上に前線が停滞し、前線上に低気圧が発生して東へ進んだ。沖縄・奄美と九州南部で雨が降り、九州北部と四国で曇りとなった。14日は、本州南岸に前線が停滞し、前線上の九州の南海上の低気圧が東海道沖へ進んだ。また、日本海西部に低気圧が発生した。沖縄・奄美で雨が降り、西日本と東日本で雨や曇りとなった。三陸沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、北海道の太平洋側で雨が降った。15日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、前線上の東海道沖の低気圧が日本の東海上へ進んだ。日本海西部の低気圧が東北地方へ進んで消滅し、日本海北部に別の低気圧が発生した。沖縄・奄美や西日本の一部と東日本から北日本にかけて雨が降り、北海道の一部では大雨となった。沖縄・奄美と東北地方では雷を伴ったところがあった。

上空の寒気の影響で、北日本を中心に雨（16日～17日）

16日は、日本海北部の低気圧がサハリンの西海上へ進んだ。北陸と北日本で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。四国の南から関東の南にかけて前線が停滞したため、東日本の太平洋側で雨や曇りとなった。その他の地方は、高気圧に覆われたため概ね晴れた。17日は、サハリンの西海上の低気圧がオホーツク海に進んだ。東北地方日本海側と北海道で雨が降った。北日本の一部では雷を伴った。関東東海上にこの前線上に低気圧が発生し、日本の東へ進んだため、東日本と東北地方の太平洋側で曇りとなった。

台風第13号と停滞前線の影響で、沖縄・奄美で大雨（18日～23日）

18日と19日は、本州南岸に前線が停滞した。沖縄・奄美と伊豆諸島で雨が降り、一部では大雨となった日があった。その他の地方は概ね晴れたが、西日本は雨や曇りとなった日があり、東海地方から東北南部にかけては曇りとなった日があった。20日は、引き続き本州南岸に前線が停滞した。沖縄・奄美と西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、沖縄・奄美では大雨となった。日本海中部に低気圧が発生して東北地方へ進んだ。西日本から東日本にかけての日本海側と北日本で曇りとなった。21日は、引き続き本州南岸に前線が停滞し、東北地方の低気圧が消滅した。沖縄・奄美で雨が降り、西日本から北海道南部にかけて雨や曇りとなった。沖縄・奄美の一部と伊豆諸島の一部では大雨となった。22日と23日は、本州南岸に停滞する前線が南下した。沖縄・奄美で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。東日本は曇りとなった日があった。沖縄・奄美の一部では大雨となり、雷を伴ったところがあった。北日本は概ね晴れた。

低気圧が通過した後冬型の気圧配置となる（24日～27日）

24日は、華中から九州の西海上にかけて停滞した前線が関東の東海上までのび、前線上の日向灘に低気圧が発生して四国沖へ進んだ。奄美や西日本と東日本で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。九州南部と四国では大雨となったところがあり、九州の一部では雷を伴った。宗谷海峡に前線が停滞し、北海道の一部で雨や曇りとなった。25日は、本州南岸に停滞した前線上の四国沖の低気圧が消滅し、三陸沖に別の低気圧が発生して北海道の東海上へ

進んだ。宗谷海峡に停滞した前線上に低気圧が発生して千島近海へ進んだ。ほぼ全国的に雨が降り、沖縄・奄美では強風となった。26日と27日は、日本付近は冬型の気圧配置となり、北海道で雨や雪となり、西日本から東日本にかけての日本海側と東北地方で雨が降った。中国地方の一部では大雨となった日があり、九州の一部と北海道の一部では強風となった日があった。西日本から東日本にかけての太平洋側で雨や曇りとなった日があった。25日にフィリピンの東で発生した台風第14号が沖縄の南海上へ進んだ。沖縄・奄美で雨や曇りとなり、沖縄の一部では大雨となった。伊豆諸島と小笠原諸島で雨や曇りとなり、一部では強風となった。

台風第14号が本州南岸を通過、太平洋側で大雨（28日～31日）

28日は、沖縄の南海上の台風第14号が沖縄本島付近へ進んだ。本州南岸に停滞前線が発生し、前線上の東海道沖に低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。沖縄・奄美と東日本で雨が降り、西日本と北日本で雨や曇りとなった。沖縄の一部と伊豆諸島の一部では大雨となり、暴風や強風となったところがあった。29日は、沖縄本島付近の台風第14号が四国の南へ進み、前線がにほんの南海上に停滞した。沖縄・奄美から東日本にかけて雨や曇りとなり、一部では強風となった。30日は、四国の南の台風第14号が関東の東海上に進んだ。東日本で雨が降り、沖縄・奄美や西日本と北日本で雨や曇りとなった。東海地方の一部と関東の一部では大雨となり、沖縄・奄美から東日本にかけては暴風や強風となったところがあった。31日は、関東の東海上の台風第14号が温帯低気圧に変わって三陸沖へ進んだ。また、低気圧からのびる前線が日本の南海上に停滞し、前線上の四国沖に別の低気圧が発生した。西日本から東北地方にかけて雨が降り、近畿の一部と東海地方の一部では大雨となった。沖縄・奄美と北海道で雨や曇りとなったところがあった。

11月

低気圧が日本海を通過した後高気圧に覆われる（1日～7日）

1日は、東海道沖の低気圧が前線を伴って三陸沖へ進み、日本海中部の低気圧が東北地方へ進んだ。九州北部から北海道にかけて雨が降り、東北地方の一部では大雨となった。東日本では雷を伴ったところがあった。沖縄・奄美と九州南部は概ね晴れた。2日と3日は、三陸沖の低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、北日本を中心に冬型の気圧配置（以下、冬型と略す。）となった。西日本から東日本にかけての日本海側と北日本で雨が降り、東北地方の一部では大雨となった日があった。北陸と北日本では雷を伴ったところや、強風となったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。4日と5日は、上空の寒気の影響で、北陸から東北地方日本海側にかけてと北海道で雨や曇りとなり、関東で曇りとなった日があった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。6日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州の一部と北日本の一部で雨や曇りとなった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。7日は、沖縄の南海上から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上に低気圧が発生した。沖縄・奄美や西日本と小笠原諸島で雨が降り、東日本の太平洋側で曇りとなった。三陸沖に低気圧が発生したため、東北地方の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が北海道を通過して発達、冬型の気圧配置となる（8日～11日）

8日は、日本海中部の二つの低気圧の影響で、西日本の一部や北陸と北日本で雨が降った。北陸の一部では雷を伴い、西日本では強風となったところがあった。沖縄の南海上から日本の南海上にかけて停滞した前線と前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美の一部と小笠原諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。9日は、日本海中部の二つの低気圧が発達しながら北海道へ進んだ。北陸と北日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなった。北陸の一部と北日本の一部では雷を伴い、西日本から北日本にかけて強風となったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。10日は、北海道付近の二つの低気圧が千島近海でひとつにまとまり、

北日本を中心に冬型となった。北海道で雪や雨となり、北陸と東北地方で雨が降った。西日本の日本海側で雨や曇りとなった。北陸の一部では雷を伴い、北海道では暴風や強風となったところがあった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。11日は、引き続き北日本を中心に冬型となった。北海道の日本海側で雪や雨となり、北陸と東北地方の日本海側で雨や曇りとなった。日本海西部に前線を伴った低気圧が発生し、九州北部で雨が降り、中国地方と四国で曇りとなったところがあった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

低気圧や前線が北日本を通過した後、冬型の気圧配置となる（12日～16日）

12日は、日本海西部の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が本州を通過して低気圧から離れ、前線上の千島近海に別の低気圧が発生した。西日本や東日本の日本海側と北日本で雨が降った。西日本の一部と北日本の一部では雷を伴い、北日本では強風となったところがあった。沖縄の南海上に前線が停滞し、沖縄・奄美の一部で曇りとなった。13日は、沖縄の南海上から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の沖縄の南海上に低気圧が発生した。沖縄・奄美と小笠原諸島で雨が降り、沖縄の一部では大雨となった。千島近海の低気圧が東へ離れ、北海道で雨が降り、一部では強風となった。湿った空気の影響で、その他の地方は曇りや雨となった。14日は、日本海北部の低気圧がサハリンへ進み、伴う前線が北日本を通過した。北海道で雪や雨となり、東北地方で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、その他の地方は雨や曇りとなった。15日は、サハリンの低気圧が東へ離れ、日本付近は冬型となった。北日本の日本海側で雪や雨が降り、先島諸島や西日本から東日本にかけての日本海側で雨が降った。上空の気圧の谷の影響で、関東で雨が降った。その他の地方は晴れや曇りとなった。16日は、寒気の影響で、北日本の日本海側で雪が降り、西日本から東日本にかけての日本海側で雨が降った。沖縄・奄美と伊豆諸島は雨や曇りとなった。高気圧に覆われたため、その他の地方は晴れや曇りとなった。

低気圧が通過した後高気圧に覆われる（17日～21日）

17日と18日は、日本海中部に上空に寒気を伴った低気圧が発生し、東北地方に進んで消滅した。中国地方から東北地方にかけての日本海側で雨が降り、西日本の太平洋側と北海道の日本海側で雨が降った日があった。東海道沖の低気圧が東へ離れ、関東で雨が降った。湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降った。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。19日は、沖縄の南海上に前線が停滞し、沖縄・奄美で雨が降り、先島諸島の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れたが、一部で雨や曇りとなった。20日は、沖縄の南海上に停滞した前線上に低気圧が発生し、日本の南海上へ進んだ。沖縄・奄美や伊豆諸島と小笠原諸島で雨が降った。上空の寒気の影響で、北海道で曇りとなった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。21日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本と関東で雨が降ったところがあった他は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や本州南岸の低気圧の影響で全国的に雨（22日～24日）

22日は、東シナ海に停滞した前線上に低気圧が発生して四国沖へ進んだ。また、沿海州の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。ほぼ全国的に雨が降り、東海地方の一部と甲信地方の一部では大雨となった。北海道では雷を伴ったところがあった。23日は、四国沖の低気圧が三陸沖へ進み、オホーツク海の低気圧からのびる前線が北日本を通過した。北海道で雪や雨となり、東日本で雨が降り、沖縄・奄美や西日本と東北地方で雨や曇りとなった。24日は、三陸沖の低気圧が千島近海へ離れ、ほぼ全国的に晴れたが、湿った空気の影響で、一部で雨や曇りとなった。

低気圧が次々と日本海を通過（25日～30日）

25日は、日本海中部の低気圧が前線を伴って日本海北部へ進んだ。西日本から北日本にかけて雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。26日は、日本海北部の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。北海道で雪や雨が降り、西日本から東日本にかけての日本海側で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。中国地方の一部では雷を伴った。関東の東海上に低気圧が発生したため、関東で雨が降った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。27日は、朝鮮半島に低気圧が発生して前線を伴って沿海州に進み、伴う前線が日本海中部から九州北部にかけてのびた。北海道の一部で雪や曇りとなり、西日本の太平洋側で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。28日は、沿海州の低気圧がサハリンの西海上へ進み、伴う前線が北日本から西日本にかけて通過した。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降り、北陸で雨となった。北日本の一部では雷を伴い、北海道では強風を伴ったところがあった。上空の寒気の影響で、沖縄・奄美と西日本で雨や曇りとなった。29日は、北日本を中心に冬型となり、北日本で雪や雨が降り、北陸で雨が降った。北陸の一部では雷を伴い、北海道では強風となったところがあった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方では概ね晴れた。30日は、日本海中部の低気圧が前線を伴って東北地方へ進んだ。北日本で雪や雨が降り、北陸の一部で雨が降った。北海道の一部では強風となった。沖縄本島付近に前線が停滞し、前線上に低気圧が発生した。沖縄・奄美で雨が降り、奄美の一部では大雨となった。西日本は曇りとなった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

12月

低気圧が発達しながら日本海を通過し、東日本や北日本で大荒れ（1日～4日）

1日は、釧路沖の低気圧が前線を伴って北東へ離れた。北海道の日本海側で雪が降り、東北地方の一部で雨が降った。沖縄の南海上から日本の南海上に前線が停滞し、前線上の沖縄本島付近の低気圧が東へ進んで消滅した。沖縄・奄美や九州南部地方と小笠原諸島で雨が降り、伊豆諸島で雨や曇りとなった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。2日は、九州西海上に低気圧が発生し、前線を伴って山陰沖へ進んだ。沖縄・奄美と西日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。四国の一部と東海地方の一部では大雨となり、西日本の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。3日は、山陰沖の低気圧が発達しながら日本海北部へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。西日本から北日本にかけて雨が降り、東日本の一部と北日本の一部では大雨となった。西日本から東北地方にかけては雷を伴ったところがあり、西日本から北日本にかけては暴風や強風となったところがあった。4日は、日本海北部の低気圧がオホーツク海に進んだ。日本付近は冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となり、東日本の日本海側と北日本で雪や雨となった。東日本や北日本では暴風や強風となったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。

前線や低気圧が次々と通過（5日～13日）

5日は、オホーツク海の低気圧が北へ離れた。北日本で雨や曇りとなり、一部では強風となった。高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。6日は、日本海中部に前線が停滞し、前線上の秋田沖に低気圧が発生して日高沖へ進んだ。北海道で雪や雨が降り、東北地方の一部で雨が降った。西日本から東日本にかけての日本海側で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。7日は、日高沖の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。また、東海道沖の低気圧が関東の東海上へ進んだ。北海道で雪が降り、西日本から東北地方にかけて雨や曇りとなった。中国地方の一部では大雨となった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。8日は、関東の東海上の低気圧が三陸沖へ進み、黄海の低気圧が日本海中部へ進んだ。北日本の一部と東日本で雪や雨となり、一部では強風となった。西日本で雨や曇りとなり、一部では雷を伴い、強風となったところがあった。沖縄・奄美は曇りとなった。9日は、日本海中部の低気圧が消滅し、東海道沖に発生した低気圧が三陸沖へ進んだ。西日本で雨が降り、東日本で

雪や雨となった。西日本の一部と北陸の一部では雷を伴い、九州と四国では強風となったところがあった。上空の寒気の影響で、北日本で雪や雨となった。沖縄・奄美は概ね晴れた。10日は、上空の寒気の影響で、東日本の日本海側から北日本の日本海側にかけて雪や雨となり、西日本の日本海側で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。11日は、沿海州の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。北日本で雪や雨となり、沖縄・奄美や西日本と北陸で雨や曇りとなった。北陸の一部では雷を伴い、北海道では強風を伴ったところがあった。関東甲信地方は概ね晴れた。12日は、日本海北部の低気圧がオホーツク海に離れた。北海道の日本海側で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。北海道の一部では暴風や強風となった。中国地方から東日本の日本海側にかけては雨や曇りとなった。華中から九州の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の東シナ海に低気圧が発生した。沖縄・奄美の一部と九州の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。13日は、東シナ海の低気圧が前線を伴って近畿へ進んだ。東北地方で雪や雨が降り、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。九州南部地方の一部では大雨となった。上空の寒気の影響で、北海道で雪や曇りとなり、北海道の一部では強風となった。

冬型の気圧配置となった後高気圧に覆われる（14日～19日）

14日は、近畿の低気圧が東海道沖へ進んで消滅し、前線上の三陸沖に低気圧が発生して千島近海へ進んだ。日本付近は冬型となり、北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨となり、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。西日本の一部では強風となった。15日は、引き続き日本付近は冬型となり、西日本から東日本にかけての日本海側と北日本で雪が降り、北陸の一部では大雪となった。九州と東日本では強風となったところがあった。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は晴れや曇りとなった。16日と17日は、上空の寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雪が降った。北陸の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨や曇りとなった。日本の南海上に停滞した前線の影響で、小笠原諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。18日は、津軽海峡の低気圧が千島近海へ進んだ。北日本で雪が降り、東日本の日本海側で雪や雨が降った。西日本の日本海側は雨や曇りとなった。北陸の一部では雷を伴い、北日本では雷を伴ったところや強風となったところがあった。19日は、上空の寒気の影響で、北日本の一部で雪が降った。その他の地方は、気圧の谷の影響で、関東南部で曇りとなった他は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線を伴った低気圧が本州南岸を通過し、北日本で大荒れ（20日～22日）

20日は、日本海中部の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が東日本から北日本を通過した。北日本で雪や雨が降り、西日本と東日本の日本海側で雨が降った。北海道では強風となったところがあった。その他の地方は晴れや曇りとなった。21日は、九州の西海上に低気圧が発生し、前線を伴って東海道沖へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。オホーツク海の低気圧が北に離れ、北海道の一部で雪や曇りとなり、強風となったところがあった。東北地方は概ね晴れた。22日は、東海道沖の前線を伴った低気圧が三陸沖へ進んだ。北海道で雪が降り、西日本から東北地方にかけて雨が降った。関東と東北地方では大雨となったところがあり、東北地方の一部では雷を伴い、一部では強風となった。沖縄・奄美は曇りとなった。

冬型の気圧配置となり、全国的に雪や強風（23日～27日）

23日は、三陸沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨となった。西日本の日本海側の一部と東日本の日本海側は雨が降った。近畿や北陸と東北地方では雷を伴ったところがあり、北海道では強風となった。24日と25日は、日本付近は冬型となり、西日本の日本海側の一部や東日本の日本海側と北日本で雪が降った。沖縄・奄美で雨が降った。北陸の一部と東北地方の一部では雷を伴い、全国的

に強風となったところがあった。26日と27日は、引き続き日本付近は冬型となり、東日本の日本海側や東北地方と北海道の日本海側で雪が降り、西日本で雪や雨が降った。西日本の一部と北陸の一部では雷を伴い、西日本から東北地方にかけて強風となったところがあった。沖縄・奄美は雨が降った日があった。

低気圧が通過した後冬型の気圧配置となり、全国的に雪や強風（28日～31日）

28日は、黄海の低気圧が前線を伴って秋田沖へ進んだ。また、本州南岸に前線が発生して北東へ進み、前線上の三陸沖に低気圧が発生した。北海道の一部で雪が降り、西日本や東日本の一部と東北地方で雪や雨が降った。西日本と東日本では雷を伴ったところがあり、一部では強風となった。29日は、秋田沖の低気圧と三陸沖の低気圧が一体となって北海道の東へ進み、日本付近は冬型となった。西日本から東日本にかけての日本海側と北日本で雪が降った。西日本と北陸では雷を伴ったところがあり、西日本から東北地方にかけての一部では強風となった。西日本の太平洋側の一部は雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。30日は、日本海中部の上空に寒気を伴った低気圧が東へ進んだ。また、四国沖に別の低気圧が発生し、前線を伴って関東の東海上へ進んだ。北陸と甲信地方で雪が降り、北日本の一部で雪や曇りとなり、西日本と東海地方で雪や雨となった。西日本の一部と北陸の一部では雷を伴い、九州と四国では強風となったところがあった。沖縄・奄美は雨が降り、関東は曇りや雨となった。31日は、日本海中部の低気圧が三陸沖へ進み、関東の東海上の低気圧が日本の東海上へ進んだ。また、三陸沖に別の低気圧が発生した。日本付近は冬型となり、西日本や東日本の日本海側と北日本で雪が降った。東北地方の一部では大雪となり、西日本の一部と北陸の一部では雷を伴った。沖縄から東北地方にかけては強風となったところがあった。